ICOM

取扱説明書

車載型デジタル簡易無線機
IC-DPR100

HM-206 #02（コマンドマイク）編

HM-206 #02（別売品）接続時の写真です。

この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。
無線局の登録申請手続きをしないで運用されますと、不法無線局となり1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなりますのでご注意ください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本書は、本製品にHM-206 #02（別売品：コマンドマイク）を接続したとき、使用できる機能と操作について説明した取扱説明書です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

取扱説明書の内容について

無線機本体に付属のスピーカーマイク（HM-204）でお使いになる場合の操作については、弊社ホームページに掲載されているIC-DPR100取扱説明書（PDFファイル）をご覧ください。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、 Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビープ、コマンドマイクは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

本製品のフォントは、モリサワのフォントを採用しております。

もくじ

はじめに ―――――――――――――――――――――― i
取扱説明書の内容について…… i
登録商標/著作権について …… i

1.各部の名称と機能―――――――――――――― 1-1
■ 前面部 …… 1-1
■ HM-206 #02表示部 …… 1-2

2.電源の入れかたと音量調整――――――――― 2-1

3.はじめての通話 ―――――――――――――― 3-1
■ 通話するときのアドバイス …… 3-2

4.簡単なグループ通話のしかた ――――――― 4-1
■ ユーザーコードを設定して通話するには …… 4-1
■ 通話チャンネル毎にユーザーコードを設定するには … 4-4

5.盗聴防止の設定をするには ――――――― 5-1
■ 秘話機能を使用して通話するには…… 5-1
■ 通話チャンネル毎に秘話キーを設定するには … 5-4

6.個別呼び出し機能による通話 ――――――― 6-1
■ 呼び出しかたの種類について …… 6-1
■ 個別呼び出し機能を設定するには…… 6-2
■ 個別呼び出し機能で通話するには…… 6-4

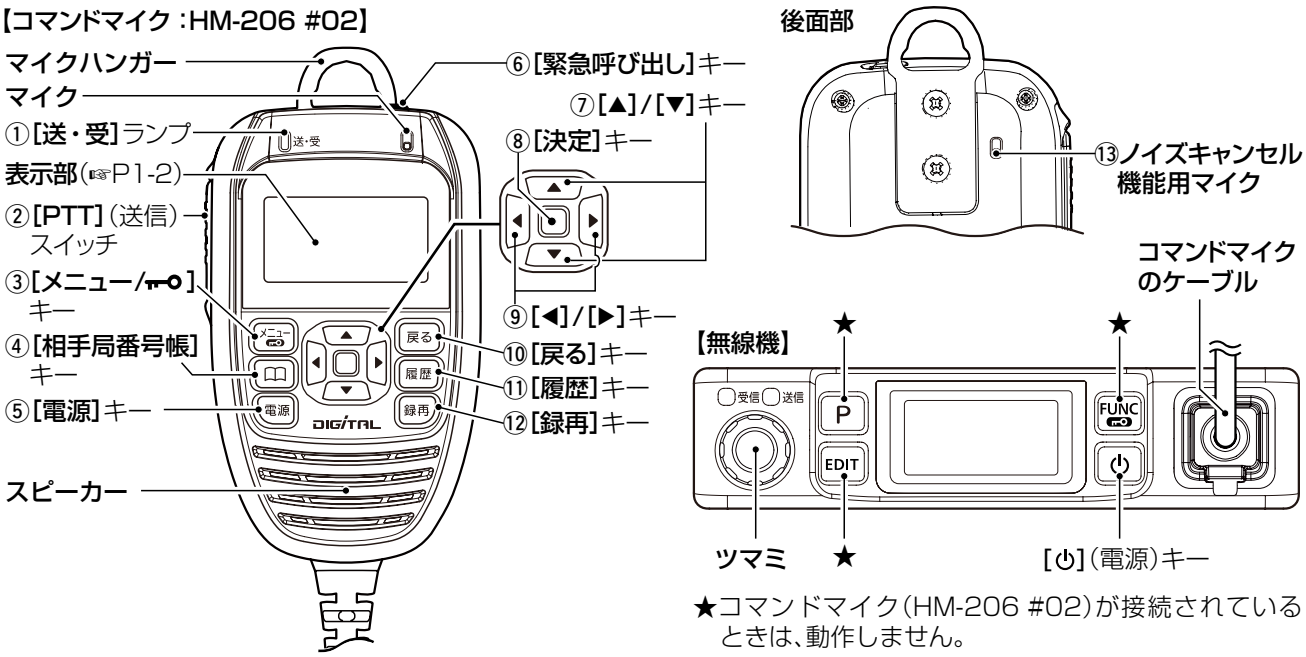
7.そのほかの機能について――――――――― 7-1
■ ロック機能 …… 7-1
■ 上空用チャンネルの受信 …… 7-1
■ モニター機能 …… 7-1
■ ポケットビープ機能 …… 7-1
■ 呼び出しメロディー機能 …… 7-2
■ 受信電波強度通知機能 …… 7-2
■ 送信出力の切り替え機能 …… 7-2
■ 着信履歴表示機能 …… 7-3
■ プライベートチャンネル機能 …… 7-4
■ プライベートチャンネルスキャン機能 …… 7-4
■ メモリーチャンネルスキャン機能 …… 7-5
■ 空きチャンネルサーチ機能…… 7-6
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー) …… 7-7
■ GPS機能 …… 7-9
■ ノイズキャンセル機能…… 7-10

8.各種機能の設定 ―――――――――――――― 8-1
■ 設定一覧 …… 8-1
■ 設定モードに移行するには …… 8-1
■ 詳細設定モードに移行するには …… 8-2
■ 設定のしかた …… 8-2
■ 設定項目について …… 8-3

9.初期状態に戻す(リセットする)には――――― 9-1

1 各部の名称と機能

■ 前面部



★コマンドマイク(HM-206 #02)が接続されているときは、動作しません。

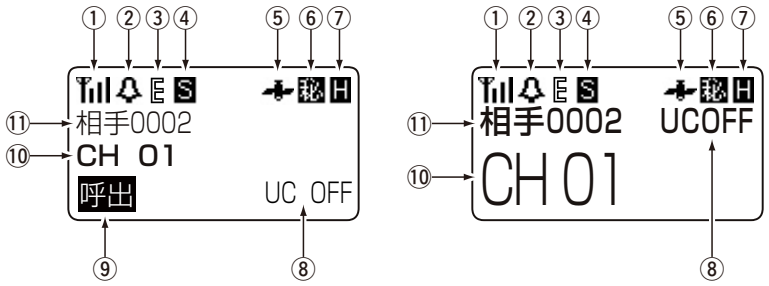
①	**[送・受]**ランプ ◎消灯:電波を受信していないとき(待ち受け状態) ◎緑色:電波を受信しているとき ◎赤色:**[PTT]**(送信)スイッチを押している(電波を出している)とき
②	**[PTT]**(送信)スイッチ 押しているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態に切り替わります。
③	**[メニュー/🔒]**キー ◎短く押すと、メニュー画面を表示します。 ◎長く押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。 (☞P7-1)
④	**[相手局番号帳]**キー ◎個別呼び出し機能が設定されている場合、押すごとに、ALL(全局)/相手局/グループを選択する画面に切り替わります。 (☞P6-4) ◎相手局番号、またはグループ番号の選択は、**[▲]**/**[▼]**キーで選択します。 ◎相手局を選択する画面で、**[相手局番号帳]**キーを長く押したときは、編集する桁を**[◀]**/**[▶]**キー、相手局番号を**[▲]**/**[▼]**キーで選択できます。
⑤	**[電源]**キー 電源を「入」/「切」します。 (☞P2-1)
⑥	**[緊急呼び出し]**キー 緊急呼び出し機能が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。 (☞P7-8)
⑦	**[▲]**/**[▼]**キー 通話チャンネル番号、相手局番号、グループ番号、着信履歴などを選択します。

⑧	**[決定]**キー 押すと、選択した内容を確定します。
⑨	**[◀]**/**[▶]**キー ◎押すと、音量が変わります。 ◎メニュー画面などで、1つ下の階層に進むときは**[▶]**キー、1つ上の階層に戻るときは**[◀]**キーを押します。
⑩	**[戻る]**キー ◎メニュー画面、着信履歴を表示する画面などで、短く押すと、1つ上の階層に戻ります。 ◎通話後、短く押すと、強制的に終話します。
⑪	**[履歴]**キー 押すと、着信履歴を表示する画面に切り替わります。
⑫	**[録再]**キー 工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、「無効」に設定されていますので、動作しません。 ※詳細設定モードの[録再キー短押し]、または[録再キー長押し]で、**[録再]**キーに割り当てる機能を変更できます。(☞P8-7) ※本製品では、録音再生機能に対応していません。
⑬	**ノイズキャンセル機能用マイク** 周囲のノイズを検出するために使用します。 ノイズキャンセル機能が設定されているとき、このマイクから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクから入った周囲のノイズを打ち消します。 設定されているときは、通話する音声に含まれる低音域のノイズの軽減に効果があります。

1 各部の名称と機能

■ HM-206 #02表示部

待ち受け中、⑧、⑩、⑪は、文字サイズの設定により、右図のどちらかの大きさで表示されます。



①		受信している電波の強度を、下図の3段階(目安)で表示します。 弱　中　強 ※「 」は、電源が入っているときは常に表示されています。
②		ポケットビープ機能が設定されているとき表示します。 (☞P7-1) 呼び出しを受けると、点滅します。 ※個別呼び出し機能が設定されていないとき、またはユーザーコードが設定されていない通話チャンネルを選択したときは、表示されません。
③	E	エマージェンシー機能(☞P8-6)が設定されているときに表示します。
④	S	プライベートチャンネルスキャン機能(☞P7-4)、メモリーチャンネルスキャン機能(☞P7-5)、空きチャンネルサーチ機能(☞P7-6)のいずれかが動作中に点滅します。
⑤		コマンドマイク(HM-206 #02)に内蔵されたGPSレシーバーの受信状態を表示します。 **消灯**:GPS機能(☞P7-9)を使用していないとき **点滅**:自局の位置情報を受信(測位)中 **点灯**:自局の位置情報の測位が完了

⑥	秘	秘話機能が設定されているときに表示します。 (☞P5-1)
⑦	H	各通話チャンネルの送信出力(High/Low)設定を表示します。 5Wのときに表示します。
	L	1Wのときに表示します。
	R	上空用チャンネル(CH S1～CH S5)を選択したときに表示します。
⑧	UC OFF	各通話チャンネルのユーザーコード設定を表示します。 **OFF**(000):ユーザーコードなし **001～511**:ユーザーコードあり
⑨	通話	個別呼び出し機能で通話中に表示します。 (☞P6-1) また、ALL(全局)/グループ呼び出しで送信や着信したときにも表示します。
	呼出	個別呼び出しで送信したときに表示します。
	着信	自局宛ての個別呼び出しを受けたときに表示します。
⑩	**CH** (例:CH 01)	待ち受け状態のとき、通話チャンネル番号を表示します。
⑪	**相手** (例:相手 0002)	個別呼び出し機能が設定されているときは、個別呼び出しの選択状態(ALL/相手局/グループ)と、選択した相手局番号、グループ番号を表示します。

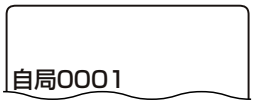
2 電源の入れかたと音量調整

1 電源を入れる

[電源]キーを長く（1秒以上）押します。

- **「ピー」**と鳴り、選択されている通話チャンネル番号を読み上げます。

起動コメント表示



自局番号の表示例

呼出用チャンネル表示★

【自局番号の表示について】
個別呼び出し機能（☞P6-1）が設定されているときだけ、表示されます。

★工場出荷時や全設定初期化時は、呼出用チャンネル（CH15）を表示します。（☞P3-1）
運用後は、前回選択した通話チャンネル（CH01～CH14、CH15（呼出CH）、CH16～CH30）を表示します。

【コマンドマイクの文字サイズについて】
コマンドマイク（HM-206 #02）の表示文字サイズ（初期設定値:大）を変更できます。

※文字サイズの変更は、詳細設定モードから設定できます。（☞P8-11）

※無線機本体の表示文字サイズは、変更できません。

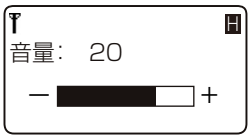
文字サイズ:大

文字サイズ:小

2 音量を調整する

[◀]/[▶]キーを押すと、音量を調整できます。
相手の音声が聞きやすい音量レベルに調整してください。

- 0～32の範囲で調整します。



音量表示（表示例:20）

【ご注意】
音量が最小のときは、操作音（ビープ音）や警告音、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声などは、聞こえません。

【ご参考】チャンネル番号音声案内機能について
電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

※使用しないときは、詳細設定モードの[チャンネル番号音声案内]で設定を「OFF」にできます。（☞P8-8）

3 はじめての通話

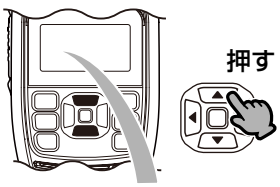
相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの非常に簡単な通話のしかたについて説明しています。

1 通話チャンネルを合わせる

[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

●選択範囲:
CH 01～CH 14、
CH 16～CH 30

※通話チャンネルの上限(例:CH 01)、または下限(例:CH 30)を選択したときは、**「ピピッ」**と鳴ります。



通話チャンネルの選択
(例:CH 01)

【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示されます。
このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話(☞P4-1)や秘話機能(☞P5-1)、個別呼び出し機能(☞P6-1)による通話に使用できません。
「呼出CH」で呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に変更してから通話してください。

呼出用チャンネル表示

2 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】
[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。
この状態で、**[PTT]**(送信)スイッチを押しても、混信防止(キャリアセンス)機能(☞P3-2)が動作して、送信できないようになっています。
※**[送・受]**ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

[PTT](送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

● **[PTT]**(送信)スイッチを押しているあいだは、**[送・受]**ランプが赤色に点灯します。

送信中の表示(例:CH01)

3 呼び出しを受ける(受信する)

[PTT](送信)スイッチをはなすと待ち受け状態になります。

◎待ち受け状態のときは、**[送・受]**ランプが消灯しています。

◎電波を受信中は、**[送・受]**ランプが緑色に点灯します。

受信中の表示(例:CH01)

※音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、**[送・受]**ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】
[送・受]ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、**[PTT]**(送信)スイッチを押します。

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、**「5分以内」**と電波法で定められています。

制限時間の**10秒前**になると、ビープ音が**「ピッ」**と鳴ります。

連続通話時間が5分になると、警告音が**「ブッ」**と鳴って、自動的に送信を停止します。

※送信を自動停止すると、1分間は通話できません。
　通話を再開する場合は、1分後に**[PTT]**（送信）スイッチを押してください。

2. 混信防止（キャリアセンス）機能について

無線局の運用では、自分が送信中、ほかの人が自分と同じ通話チャンネルで送信すると、混信を受け通話ができない場合があります。

また、逆にほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。

このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、通話中とみなし、送信できないよう、自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。

キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。

3秒以上通話が途切れた場合、本製品が通話を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。

なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合（混信や妨害波を含む）についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがありますが、故障ではありません。

本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況（天候、山や建物などの障害物）により、受信しにくくなることがあります。

◇通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。

（送信出力：5W時）

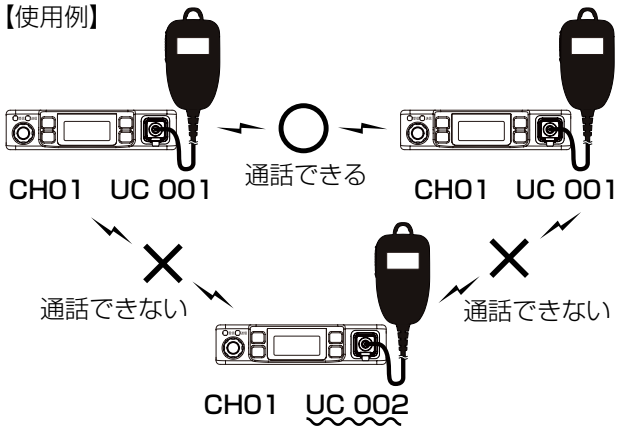
見通しのよい場所：約10km
市街地や建物内　：約1～3km

◇通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して通話してください。
また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

4 簡単なグループ通話のしかた

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。
通話チャンネル(☞3章)とユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

【使用例】



※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。

【「呼出CH」選択時のご注意】
「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、ユーザーコードを使用できないため、本章の操作はできません。

呼出用チャンネル表示

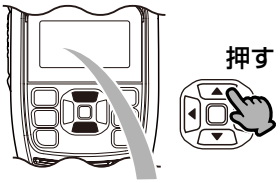
【ご参考】ユーザーコードの設定方法変更について
通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)ごとに異なるユーザーコードを使用する場合は、「■ 通話チャンネル毎にユーザーコードを設定するには」(☞P4-4)でユーザーコードの設定を変更してから、右記の操作をしてください。

■ ユーザーコードを設定して通話するには

ユーザーコードを000から001に変更することを例に、操作手順を説明します。

1 通話チャンネルを合わせる

[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。
選択範囲:
CH 01～CH 14、
CH 16～CH 30

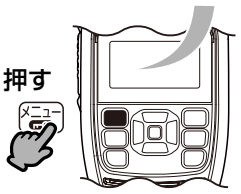


通話チャンネルの選択
(例:CH 01)

2 ユーザーコードを設定する

①**[メニュー/⊓O]**キーを短く押します。
- ●メニュー画面が表示されます。(例:呼出CH以外の通話チャンネルを選択時)

※何も操作しない状態が、約10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。



②**[決定]**キーを押します。
- ●ユーザーコードの設定状態が表示されます。

◎通話チャンネル共通のユーザーコードが設定できるように設定されているとき

通話チャンネル共通で変更できる場合の表示

◎通話チャンネルごとに異なるユーザーコードが設定できるように設定されているとき

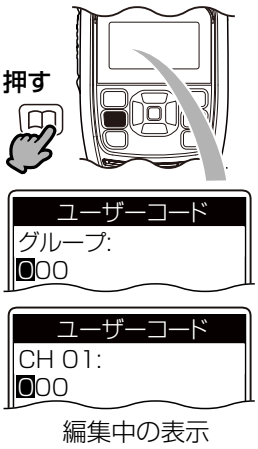
通話チャンネルごとに変更できる場合の表示

(☞次ページ手順③につづく)

■ ユーザーコードを設定して通話するには

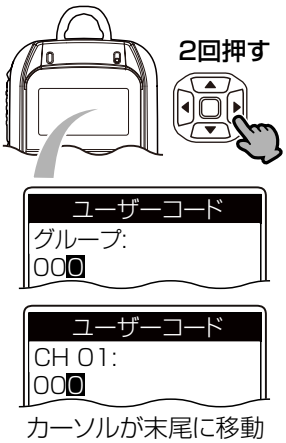
2 ユーザーコードを設定する（つづき）

③ **[相手局番号帳]**キーを押します。
- ●ユーザーコードの数字が白黒反転表示になり、編集できる状態になります。



編集中の表示

④ **[▶]**キーを2回押します。
- ●編集できる桁（白黒反転表示）が右端に移動します。

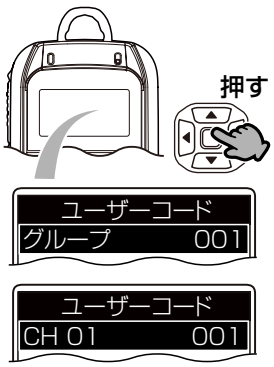


カーソルが末尾に移動

⑤ **[▲]**キーを押します。
- ●ユーザーコードが変わります。（例：001）

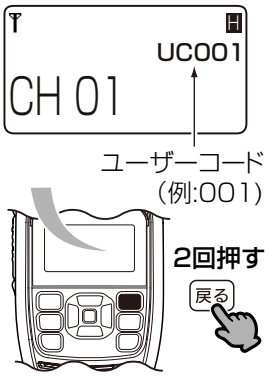
001に変更した状態

⑥ **[決定]**キーを押します。
- ●ユーザーコードの変更が確定されます。
- ※確定後、何も操作しない状態が、約10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。



変更が確定されたときの表示（例:001）

⑦ **[戻る]**キーを2回押します。
- ●通話チャンネル表示に戻ります。



（☞次ページの手順 3 につづく）

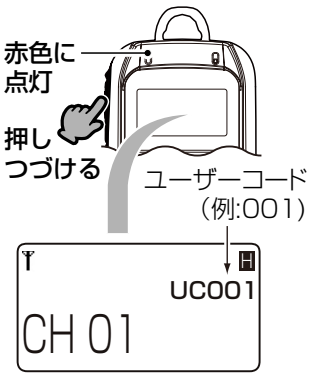
■ ユーザーコードを設定して通話するには
（つづき）

3 呼び出しをする（送信する）

【ご注意】
[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。
この状態で、**[PTT]**（送信）スイッチを押しても、混信防止（キャリアセンス）機能（☞P3-2）が動作して、送信できないようになっています。
※**[送・受]**ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

[PTT]（送信）スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

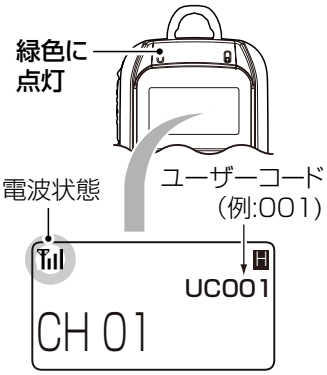
- **[PTT]**（送信）スイッチを押しているあいだは、**[送・受]**ランプが赤色に点灯します。



送信中の表示（例:CH01）

4 呼び出しを受ける（受信する）

[PTT]（送信）スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。
◎待ち受け状態のときは、**[送・受]**ランプが消灯しています。
◎電波を受信中は、**[送・受]**ランプが緑色に点灯します。



受信中の表示（例:CH01）

※音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、**[送・受]**ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】
[送・受]ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、**[PTT]**（送信）スイッチを押します。

■ 通話チャンネル毎にユーザーコードを設定するには

通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用できます。

1 詳細設定モードにする

①**[メニュー/⊶]**キーを短く押します。
- ●メニュー画面が表示されます。(例:呼出CH以外の通話チャンネルを選択時)

※何も操作しない状態が、約10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。

②**[▼]**キーを繰り返し押して、「詳細設定モード」を選択します。

③**[決定]**キーを押します。
- ●**「詳細設定」**と表示され、**「ピピッ」**と鳴ります。

※詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

2 ユーザーコードで「チャンネル毎」を選択する

①**[▲]**/**[▼]**キーを繰り返し押して、「ユーザーコード」を選択します。

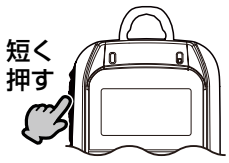
②**[決定]**キーを押します。

③**[▲]**キーを押して、「チャンネル毎」を選択します。

④**[決定]**キーを押します。
- ●設定が確定され、手順①の画面に戻ります。

3 選択した設定を有効にする

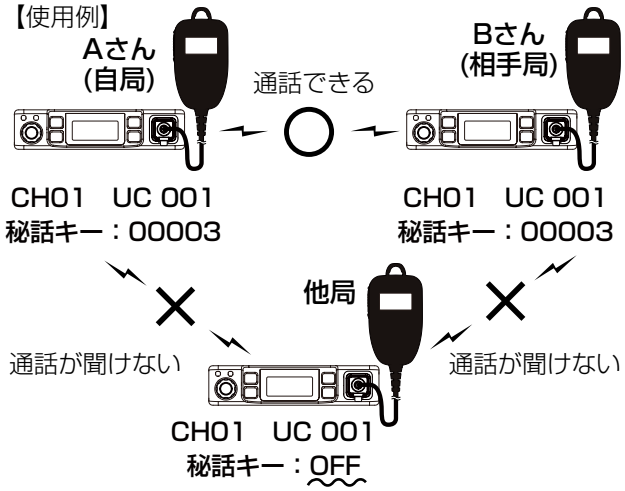
[PTT](送信)スイッチを押します。
- ● 詳細設定モードが解除されます。



※選択した通話チャンネルごとのユーザーコードは、「■ユーザーコードを設定して通話するには」(☞P4-1)の操作で変更できます。

5 盗聴防止の設定をするには

秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。
通話チャンネル(☞3章)と秘話キーが一致した相手と通話できます。
※下図のようにユーザーコード(UC 001)と併用する場合は、ユーザーコードも相手と同じに設定します。



※秘話機能を使用する人(上記の例:Aさん/Bさん)には、秘話機能を使用しない人(上記の例:他局)の通話が聞こえます。
※秘話キーが異なる相手の通話は聞こえません。
※ユーザーコードや個別呼び出し機能とも併用できます。

【「呼出CH」選択時のご注意】
「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、秘話機能を使用できないため、本章の操作はできません。

呼出用チャンネル表示

【ご参考】秘話キーの設定方法変更について
通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)ごとに異なる秘話キー(00001～32767)を使用する場合は、「■ 通話チャンネル毎に秘話キーを設定するには」(☞P5-4)で秘話キーの設定を変更してから、右記の操作をしてください。

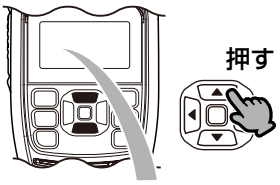
【ご注意】
機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。
また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

■ 秘話機能を使用して通話するには

秘話機能を使用して通話をする手順です。
秘話キーを00001から00003に変更することを例に、説明します。

1 通話チャンネルを合わせる

[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。
選択範囲:
CH 01～CH 14、
CH 16～CH 30
※ユーザーコードと併用する場合は、ユーザーコードも通話相手と同じに設定します。



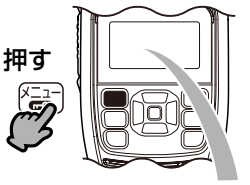
通話チャンネルの選択
(例:CH 01、UC 001)

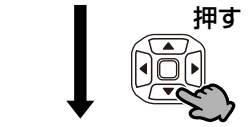
2 秘話機能を「ON」にする

①**[メニュー/⊶]**キーを短く押します。
●メニュー画面が表示されます。(例:呼出CH以外の通話チャンネルを選択時)
※何も操作しない状態が、約10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。

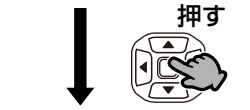
②**[▼]**キーを押して、「秘話」を選択します。

③**[決定]**キーを押します。





秘話を選択



(☞次ページ手順④につづく)

5 盗聴防止の設定をするには

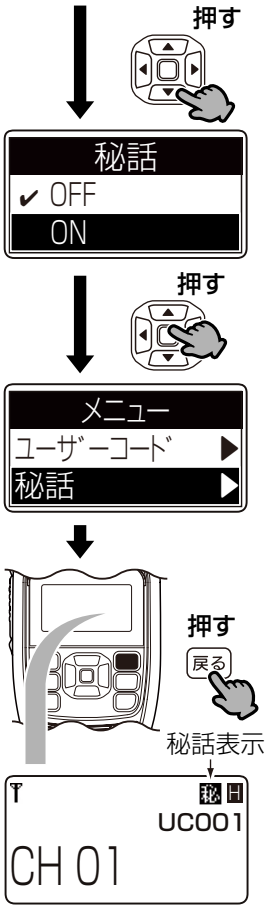
■ 秘話機能を使用して通話するには

2 秘話機能を「ON」にする（つづき）

④ **[▼]**キーを押して、「ON」を選択します。

⑤ **[決定]**キーを押します。
- ●設定が確定され、手順②の画面に戻ります。

⑥ **[戻る]**キーを押すと、通話チャンネル表示に戻ります。



秘話機能設定時の表示
（例:CH 01）

3 秘話キーを設定する

① **[メニュー/⊶]**キーを短く押します。
- ●メニュー画面が表示されます。（例：呼出CH以外の通話チャンネルを選択時）

※何も操作しない状態が、約10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。

② **[▼]**キーを繰り返し押して、「秘話キー」を選択します。

※秘話機能が「OFF」のときは、「秘話キー」が表示されません。

秘話キーを選択

③ **[決定]**キーを押します。
- ●秘話キーの設定状態が表示されます。

◎通話チャンネル共通の秘話キーが設定できるように設定されているとき

通話チャンネル共通で変更できる場合の表示

◎通話チャンネルごとに異なる秘話キーが設定できるように設定されているとき

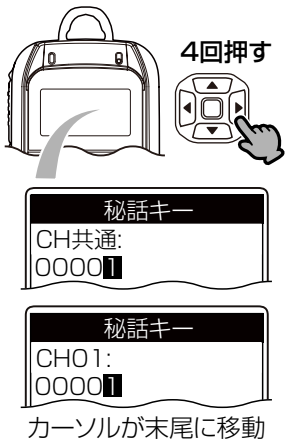
通話チャンネルごとに変更できる場合の表示

（☞次ページ手順④につづく）

■ 秘話機能を使用して通話するには

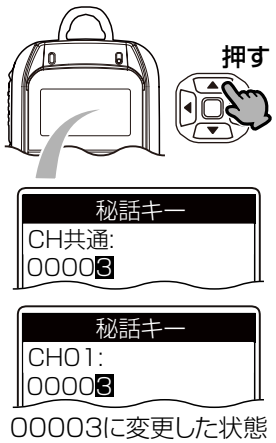
3 秘話キーを設定する（つづき）

④ **[▶]**キーを4回押します。
- ●編集できる桁（白黒反転表示）が右端に移動します。



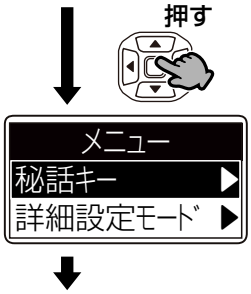
カーソルが末尾に移動

⑤ **[▲]**キーを押します。
- ●秘話キーが変わります。（例：00003）

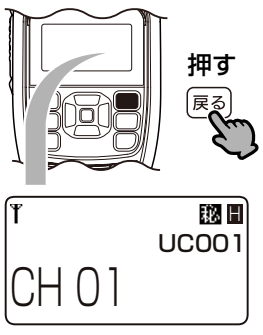


00003に変更した状態

⑥ **[決定]**キーを押します。
- ●設定が確定され、手順②の画面に戻ります。



⑦ **[戻る]**キーを押すと、通話チャンネル表示に戻ります。

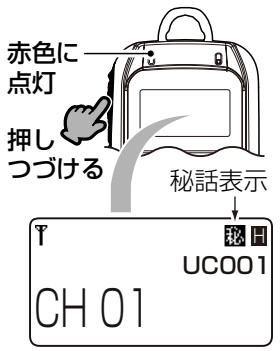


秘話機能設定時の表示
（例:CH 01）

4 呼び出しをする（送信する）

【ご注意】
[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。
この状態で、**[PTT]**（送信）スイッチを押しても、混信防止（キャリアセンス）機能（☞P3-2）が動作して、送信できないようになっています。
※ **[送・受]**ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

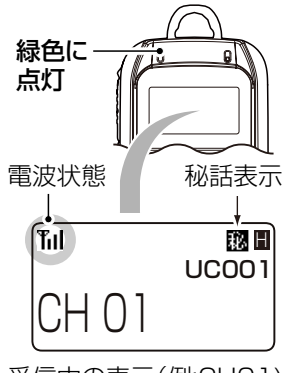
[PTT]（送信）スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。
- ● **[PTT]**（送信）スイッチを押しているあいだは、**[送・受]**ランプが赤色に点灯します。



送信中の表示（例:CH01）

5 呼び出しを受ける（受信する）

[PTT]（送信）スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。
◎待ち受け状態のときは、**[送・受]**ランプが消灯しています。
◎電波を受信中は、**[送・受]**ランプが緑色に点灯します。



受信中の表示（例:CH01）

※音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、**[送・受]**ランプが緑色に点灯します。
※他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

【応答するときは】
[送・受]ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、**[PTT]**（送信）スイッチを押します。

■ 通話チャンネル毎に秘話キーを設定するには

通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用できます。

1 詳細設定モードにする

①**[メニュー/⊶]**キーを短く押します。
- ●メニュー画面が表示されます。(例:呼出CH以外の通話チャンネルを選択時)

※何も操作しない状態が、約10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。

②**[▼]**キーを繰り返し押して、「詳細設定モード」を選択します。

③**[決定]**キーを押します。
- ●**「詳細設定」**と表示され、**「ピピッ」**と鳴ります。

※詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

2 秘話で「チャンネル毎」を選択する

①**[▲]**/**[▼]**キーを繰り返し押して、「秘話」を選択します。

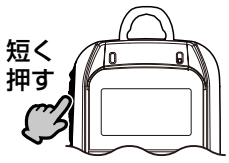
②**[決定]**キーを押します。

③**[▲]**キーを押して、「チャンネル毎」を選択します。

④**[決定]**キーを押します。
- ●設定が確定され、手順①の画面に戻ります。

3 選択した設定を有効にする

[PTT](送信)スイッチを押します。
- ● 詳細設定モードが解除されます。



※選択した通話チャンネルごとの秘話キーは、「■ 秘話機能を使用して通話するには」(☞P5-1)の操作で変更できます。

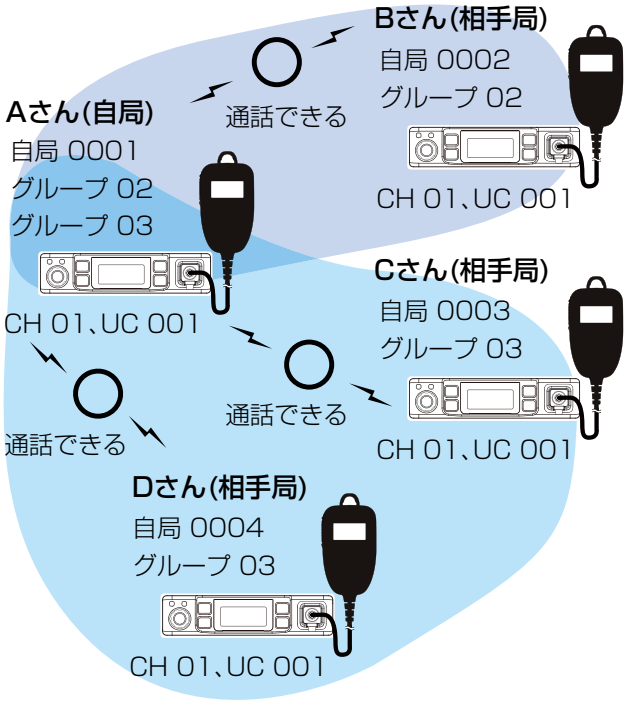
6 個別呼び出し機能による通話

■ 呼び出しかたの種類について

個別呼び出しの種類について、下図を例に説明します。

【使用例】

下図の　　は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



※ グループ呼び出しで着信させるには、あらかじめ、目的のグループ番号にメンバー指定の設定が必要です。
相手側でメンバー指定されていないグループ番号に呼び出しをしても、着信しません。(☞P6-3)

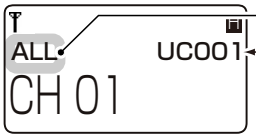
【「呼出CH」表示での機能制限について】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示されます。
このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話(☞P4-1)や秘話機能(☞P5-1)、個別呼び出し機能(☞P6-1)による通話に使用できません。

呼出用チャンネル表示

呼び出しかたには、次の3種類の方法があります。

◎全局呼び出し

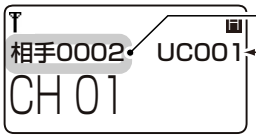


「ALL」表示
ユーザーコード(例:001)

全局呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じ相手局(例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

◎個別呼び出し

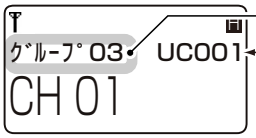


「相手」表示(例:0002)
ユーザーコード(例:001)

個別呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(例:Bさん)の自局番号(例:0002)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し



「グループ」表示(例:03)
ユーザーコード(例:001)

グループ呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、メンバー指定★されたグループ番号(例:03)に所属するすべての相手(例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

★同じグループ番号で、そのグループ番号にメンバー指定を設定している受信局だけが、送信局からの音声を聞けます。
メンバー指定の変更は、詳細設定モードから設定できます。

■ 個別呼び出し機能を設定するには

通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

※この章の説明で使用する設定値は、6-1ページの【使用例】に記載の値を使用しています。

1 詳細設定モードにする

①**[メニュー/]**キーを短く押します。
- ●メニュー画面が表示されます。(例:呼出CH以外の通話チャンネルを選択時)
- ※何も操作しない状態が、約10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。

②**[▼]**キーを繰り返し押して、「詳細設定モード」を選択します。

③**[決定]**キーを押します。
- ●**「詳細設定」**と表示され、**「ピピッ」**と鳴ります。

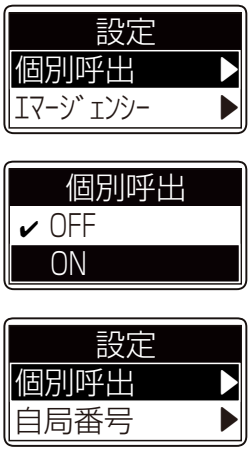
※詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

詳細設定モードの表示

2 個別呼び出し機能を「ON」にする

①**[▲]**/**[▼]**キーを繰り返し押して、「個別呼出」を選択します。
②**[決定]**キーを押します。
③**[▼]**キーを押して、「ON」を選択します。
④**[決定]**キーを押します。
- ●設定が確定され、[個別呼出]項目の下に[自局番号]項目が、表示されます。

※個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。



3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。

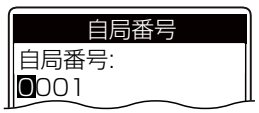
①**[▼]**キーを押して、「自局番号」を選択します。
②**[決定]**キーを押します。
③**[▲]**/**[▼]**キーを繰り返し押して、自局番号を選択します。
- ● 選択範囲:自局0001～自局9999

④**[決定]**キーを押します。

自局番号表示
(例:自局0001)

【編集できる桁を変更するには】

自局番号の選択画面で、**[相手局番号帳]**キーを短く押したときは、編集する桁を**[◀]/[▶]**キー、自局番号を**[▲]/[▼]**キーで選択できます。



カーソルを編集する桁に移動する

※選択後は、**[決定]**キーを押します。
上記の手順③、④に戻って操作します。

【設定例】

個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

Aさん(自局)　:0001　Bさん(相手局):0002
Cさん(相手局)　:0003　Dさん(相手局):0004

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

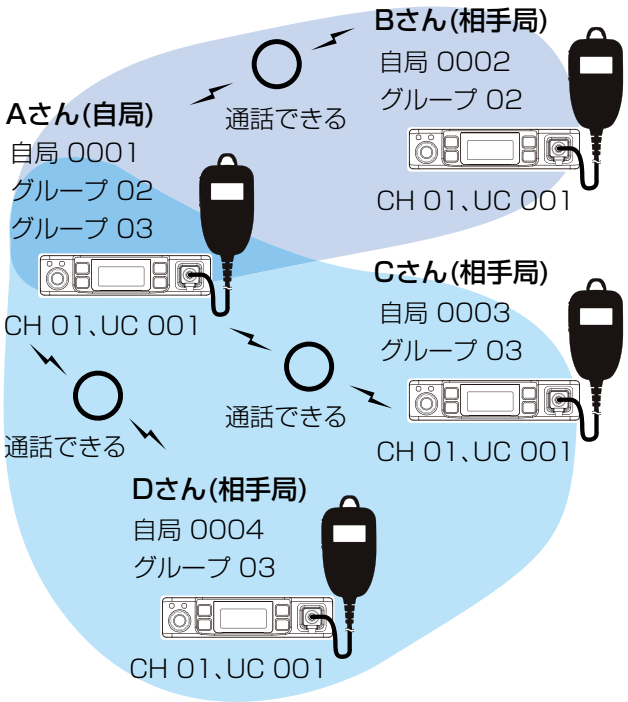
4 グループ表示を「ON」にする

①[▲]/[▼]キーを繰り返し押して、「グループ表示」を選択します。
②[決定]キーを押します。
③[▼]キーを押して、「ON」を選択します。
④[決定]キーを押します。
● 設定が確定され、手順①の画面に戻ります。

5 グループ呼び出しを設定する

ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号をメンバーとして指定します。

【メンバー指定するグループ番号の例】
グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。
Aさん(自局) :グループ02/グループ03
Bさん(相手局):グループ02
Cさん(相手局):グループ03
Dさん(相手局):グループ03
図の　　は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



5 グループ呼び出しを設定する(つづき)

①[▲]/[▼]キーを繰り返し押して、「グループ設定」を選択します。

②[決定]キーを押します。
③[▲]/[▼]キーを繰り返し押して、指定するグループ番号を選択します。
● 選択範囲:グループ01～グループ10

④選択したグループ番号(例:グループ02)を表示した状態で、[決定]キーを押します。
● メンバー指定を意味する「着」を表示します。

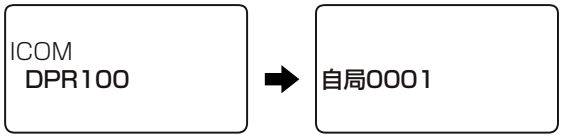
メンバー指定の状態

※ 複数のグループからの呼び出しを受けるときは、③と④の操作を繰り返します。

6 変更した設定値を確定する

2～5 の手順で変更した設定値を確定するために、[PTT](送信)スイッチを押します。
● 詳細設定モードが解除され、「DPR100」が表示されたあと、設定した自局番号(約1秒)が表示されます。

【自局番号表示例】



電源投入直後　　自局番号の表示例

※自局番号表示後に表示される内容は、電源を切る前の表示(通話チャンネル/相手局番号/グループ)によって異なります。

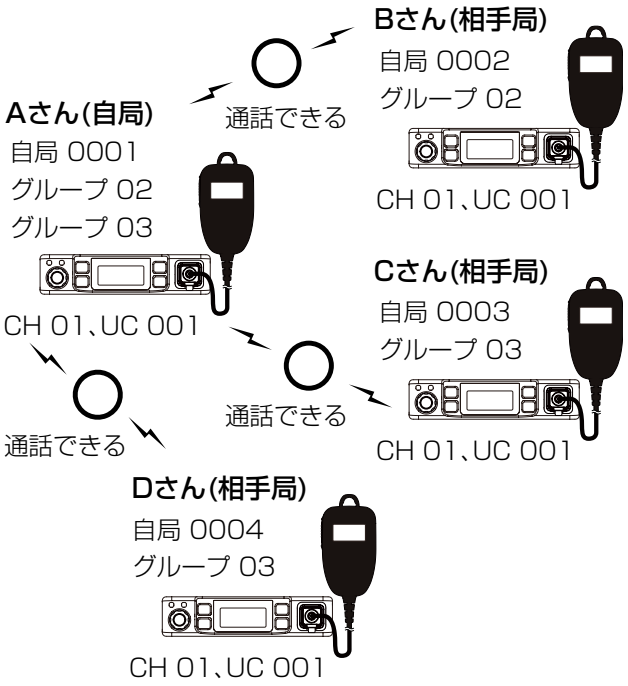
■ 個別呼び出し機能で通話するには

相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(☞P6-2～P6-3)されているものとして説明しています。

【Aさんから呼び出す場合の使用例】

通話チャンネル番号と、呼び出す相手(ALL/相手局/グループ)を選択してから送信します。

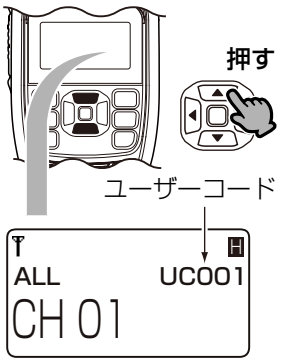


1 通話チャンネルを合わせる

[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

(表示例:全局呼び出し)

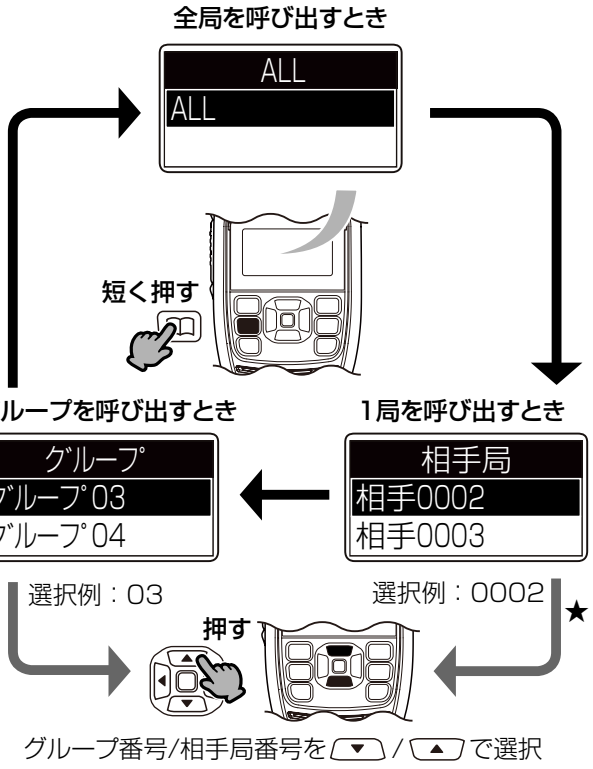
※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



ユーザーコードが設定された通話チャンネルの選択
(例:CH 01、UC001)

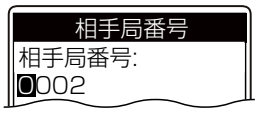
2 ALL/相手局/グループの選択

①下記の操作で、呼び出す相手を選択します。



★相手局番号選択時、編集できる桁を変更するには

相手局表示(上図)で、**[相手局番号帳]**キーを長く押したときは、編集する桁を**[◀]/[▶]**キー、相手局番号を**[▲]/[▼]**キーで選択できます。



カーソルを編集する桁に移動する

※選択後は、**[決定]**キーを押します。

手順①(上図)の操作で、相手局番号を選択します。

②**[決定]**キーを押します。

③設定されていることを確認します。

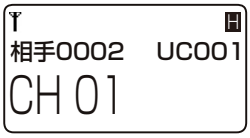
◎全局を選択した場合

「ALL」表示

◎1局(相手局)を選択した場合

「相手」表示

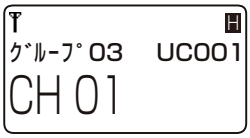
(例:相手0002)



◎グループ番号を選択した場合

「グループ」表示

(例:グループ 03)



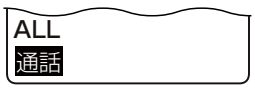
■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

3　呼び出しをする(送信する)

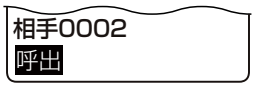
【ご注意】
[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。
この状態で、**[PTT]**(送信)スイッチを押しても、混信防止(キャリアセンス)機能(☞P3-2)が動作して、送信できないようになっています。
※**[送・受]**ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

[PTT](送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

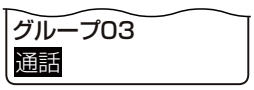
- **[PTT]**(送信)スイッチを押しているあいだは、**[送・受]**ランプが赤色に点灯します。



全局呼び出しで送信



個別呼び出しで送信

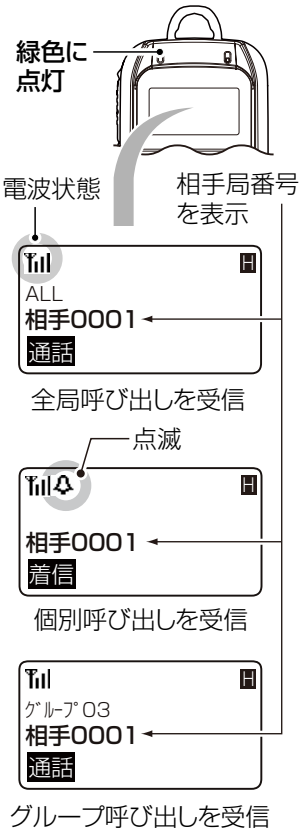


グループ呼び出しで送信

4　呼び出しを受ける(受信する)

[PTT](送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。
◎待ち受け状態のときは、**[送・受]**ランプが消灯しています。
◎電波を受信中は、**[送・受]**ランプが緑色に点灯します。

※音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、**[送・受]**ランプが緑色に点灯します。



【応答するときは】
[送・受]ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、**[PTT]**(送信)スイッチを押します。

7 そのほかの機能について

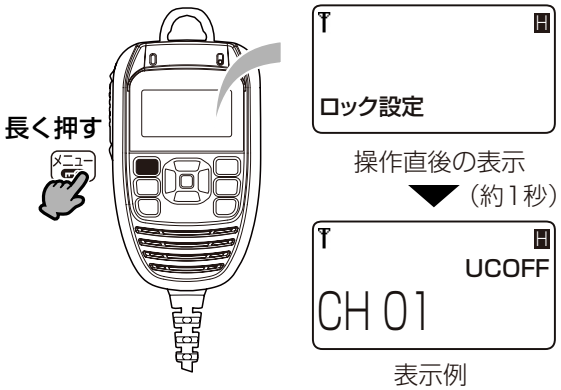
■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に、コマンドマイク(HM-206 #02)のキー、無線機のキーや**ツマミ**に触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、**[メニュー/🔑]**キーを長く(約1秒)押します。

※同じ操作をすると、解除できます。



ロック設定時の無線機の表示

〈ロック中にできる操作〉

◎ロック機能の解除

◎送信/受信の切り替え

◎電源のON/OFF

※モニター機能、エマージェンシー機能(☞P7-7)は、ロック中でも操作ができます。

※音量調整もロックする場合は、詳細設定モードの[キーロック時音量](☞P8-8)で設定を変更できます。

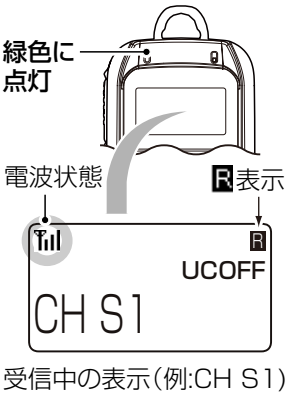
■ 上空用チャンネルの受信

スカイスポーツなどで使用されている上空用チャンネル(CH S1～CH S5)を受信できます。

◎CH S1～CH S5を選択すると、「R」を表示します。

◎上空用チャンネルでは、呼び出しや応答ができません。

※上空用チャンネルの選択には、設定が必要です。詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P8-9)



受信中の表示(例:CH S1)

■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

◎信号を受信していない状態で、**「ザー」**という音を聞きながら音量を調整するとき

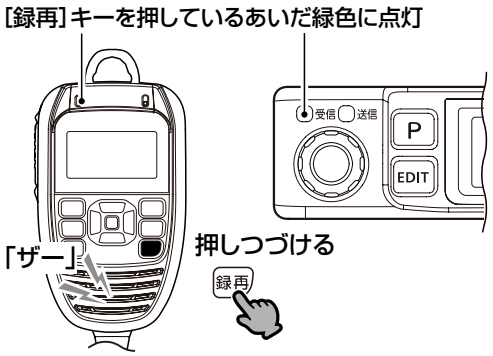
◎ユーザーコード、相手局番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くとき

※他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

※使用するには、詳細設定モードの[録再キー長押し]で、**[録再]**キーに割り当てる動作を「モニター」に設定してください。(☞P8-7)

【操作のしかた】

[録再]キーを押しているあいだ、モニター機能が動作します。

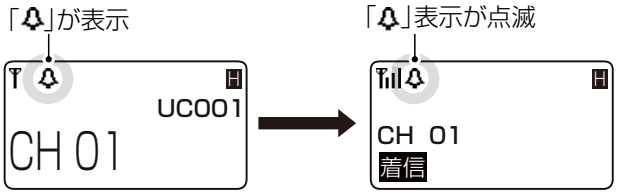


■ ポケットビープ機能

ユーザーコードや個別呼び出し機能が設定されている場合、使用できる機能です。

呼び出しを受けたとき、「🔔」表示が点滅に変わります。同時に、ビープ音、またはメロディーで通知します。

※使用するには、詳細設定モードから設定の変更が必要です。(☞P8-3)



ポケットビープ機能が設定されているとき

呼び出しを受けたとき

◎ユーザーコードと個別呼び出し機能を併用している場合も、個別呼び出しを受けると「🔔」表示が点滅に変わります。

◎呼び出しを受けたとき、ビープ音、またはメロディーを停止するときは、**[電源]**キーや無線機本体の**ツマミ**以外の操作で停止できます。

◎ポケットビープ機能が設定されていない状態で、個別呼び出しを受けたときは、ビープ音、またはメロディーは鳴らず、呼び出した相手の自局番号と、「🔔」表示の点滅だけになります。

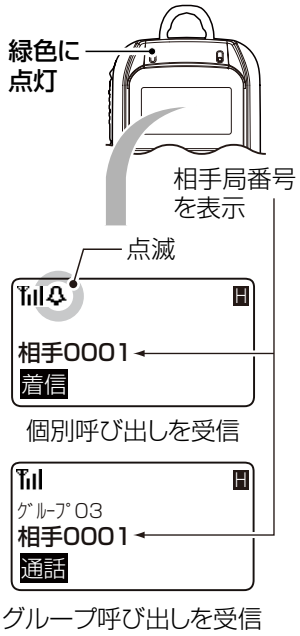
■ 呼び出しメロディー機能

個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、ポケットビープ機能、呼び出し着信音機能★の呼び出し音をメロディー(9種類)に設定できます。

※呼び出し音をメロディーに変更する場合は、詳細設定モードから設定できます。
◎ ポケットビープ機能の場合(☞P8-3)
◎ 呼び出し着信音機能の場合(☞P8-5)

※呼び出しを受けたとき、メロディーを停止するときは、**[電源]**キーや無線機本体の**ツマミ**以外の操作で停止できます。

★呼び出し着信音機能とは、相手局番号(最大10局)、グループ番号(最大10局)で、異なる呼び出し音が設定できる機能です。



■ 受信電波強度通知機能

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信信号の強度が弱くなり、相手の音声が途切れるなどして、通話がつづけられない状態になると、**「ピンポン」**と通知音が鳴ります。

※通知音が鳴ったときは、場所を移動して通話してください。
受信信号の強度が強くなり、ふたたび信号を受信できるようになると、通知音は止まります。

※使用するには、詳細設定モードから設定の変更が必要です。(☞P8-8)

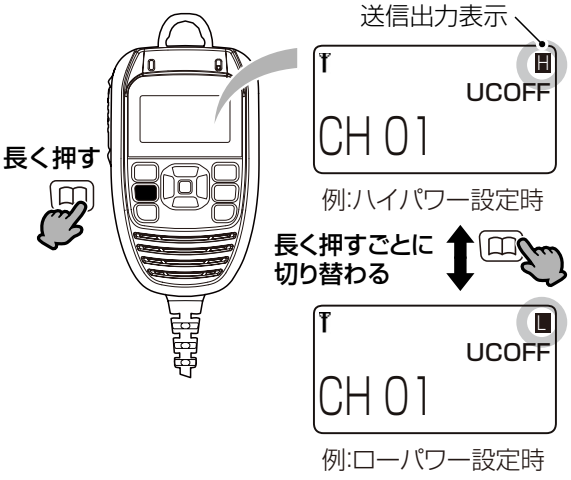
■ 送信出力の切り替え機能

無線機の送信出力を切り替えできる機能です。
通話相手との距離が近いときは、1Wで使用すると、消費電力を節約できます。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、**[相手局番号帳]**キーを長く(約1秒)押します。

※長く(約1秒)押すごとに、ハイパワー(5W:「H」)とローパワー(1W:「L」)が切り替わります。



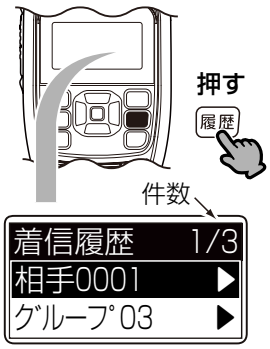
■ 着信履歴表示機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを受信したとき、相手局番号（相手の自局番号）やグループ番号、相手の位置情報（GPS機能ON時）が記憶されます。
記憶された相手局番号は、呼び出しに利用できます。
※使用するには、詳細設定モードから設定の変更が必要です。（☞P8-5）

【着信履歴を使用して、呼び出しをするには】

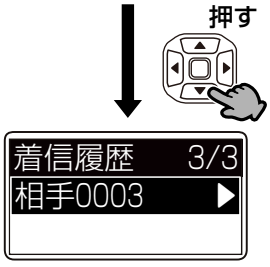
①**[履歴]**キーを押します。
- 着信履歴が表示されます。

※設定されていない場合や着信履歴がない場合は、選択できません。



例：相手0001の着信履歴が選択された状態

②着信履歴が2件以上の場合は、**[▲]**/**[▼]**キーを押して選択します。
※上から順に最新の履歴として記憶されています。



例：相手0003の着信履歴が選択された状態

③呼び出す相手の履歴を選択した状態で、**[PTT]**（送信）スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。
- **[送・受]**ランプが赤色に点灯します。

例：個別呼び出し

【着信履歴件数と履歴の消去について】

◎着信履歴を10件まで記憶できます。
　10件を超えると、古い履歴から削除されます。
◎全局呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。
◎詳細設定モードから着信履歴を消去できます。（☞P8-5）

【自局番号設定やグループ設定を変更したときは】

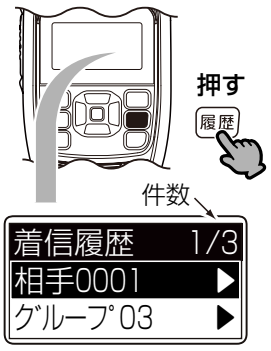
詳細設定モードの［着信履歴消去］から履歴を消去してください。（☞P8-5）
古い履歴を使用すると、意図しない相手に呼び出しすることがあります。

【着信履歴からGPS情報を確認するには】

GPS機能（☞P7-9）が送信側と受信側の無線機に設定されているとき、GPS情報を確認できます。

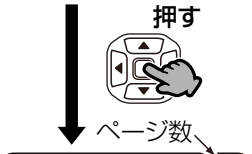
①**[履歴]**キーを押します。
- 着信履歴が表示されます。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。
※着信履歴が2件以上ある場合は、**[▲]**/**[▼]**キーを押して選択します。



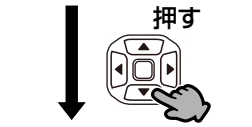
着信履歴表示を選択（例:相手0001）

②**[決定]**キーを押します。
- GPS情報を受信した時刻が表示されます。

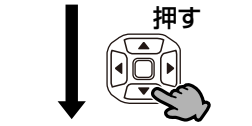


位置情報を受信した日時の着信履歴表示例

③**[▼]**キーを繰り返し押します。
- GPS情報が表示されます。



相手との距離と方位の表示例



相手の緯度と経度の表示例

■ プライベートチャンネル機能

特定の通話チャンネルをプライベートチャンネル(例:呼出CH)に設定することで、よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)との切り替えが簡単になります。

※使用するには、詳細設定モードの[録再キー短押し]、または[録再キー長押し]で、**[録再]**キーに割り当てる動作を「P-CH」に設定してください。(☞P8-7)

※プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、**[録再]**キーの操作は無効です。

【操作のしかた】

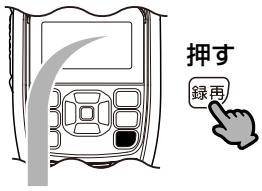
◎**「P-CH」を[録再キー短押し]に設定した場合**

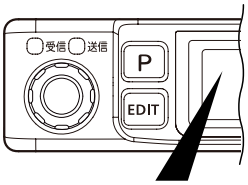
[録再]キーを短く押すごとに、通話チャンネル(例:CH 05)とプライベートチャンネル(例:呼出CH)が切り替わります。

◎**「P-CH」を[録再キー長押し]に設定した場合**

[録再]キーを長く(約1秒)押すごとに、通話チャンネル(例:CH 05)とプライベートチャンネル(例:呼出CH)が切り替わります。

コマンドマイクの[録再]キーを押します。





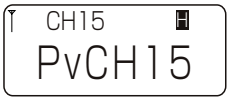
通話チャンネル番号
(設定例:CH05)

[録再]キー

プライベートチャンネル番号★
(設定例:呼出CH)

通話チャンネル番号
(設定例:CH5)

[録再]キー



プライベートチャンネル表示

約1秒後

プライベートチャンネル番号★
(設定例:呼出CH)

★工場出荷時やユーザーリセット時、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。
詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P8-6)

■ プライベートチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)を受信しながら、プライベートチャンネル番号(例:呼出CH)を一定の時間ごとに受信(監視)できます。

※使用するには、詳細設定モードの[録再キー短押し]、または[録再キー長押し]で、**[録再]**キーに割り当てる動作を「P-CHスキャン」に設定してください。(☞P8-7)

【操作のしかた】

◎**「P-CHスキャン」を[録再キー短押し]に設定した場合**

[録再]キーを短く押します。

●スキャンを開始します。

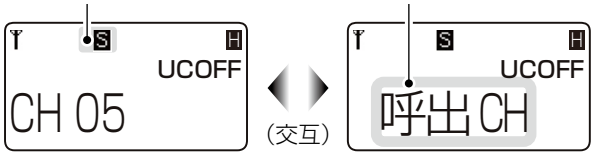
◎**「P-CHスキャン」を[録再キー長押し]に設定した場合**

[録再]キーを長く(約1秒)押します。

●スキャンを開始します。

「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)をプライベートチャンネルに設定したときは、下記のように切り替わります。

スキャン中点滅　　例:呼出用チャンネル



通話チャンネル番号　　プライベートチャンネル番号

【プライベートチャンネルスキャンを解除するには】

[決定]キーを押します。

押す

※スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。

※電源を入れなおしても、解除されません。

【プライベートチャンネルスキャンの動作について】

◎プライベートチャンネルスキャン中は、「S」が表示され点滅します。

◎プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

◎スキャン中は、通話チャンネルで待ち受け中、2秒ごとにプライベートチャンネルをスキャンします。
スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。

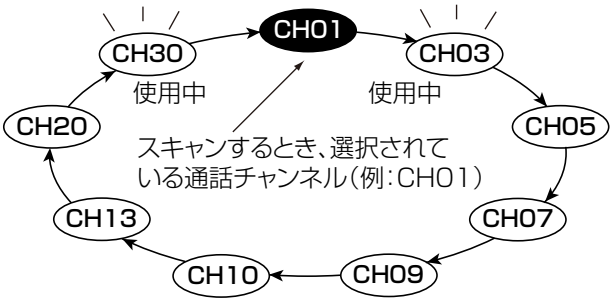
◎電波を受信中は、詳細設定モードの[スキャン停止時間](☞P8-7)と[スキャン再開時間](☞P8-8)の設定にしたがってスキャンします。

◎[プライベートチャンネル番号](☞P8-6)に上空用チャンネル(CH S1～CH S5)(☞P8-9)が設定されている場合は、上空用チャンネルをプライベートチャンネルスキャンの対象にできます。

◎スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

■ メモリーチャンネルスキャン機能

通話チャンネルを自動で切り替えて、使用中の通話チャンネルを探し出す機能です。



○ は、スキャンの対象に設定された通話チャンネル

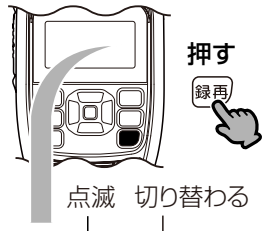
※スキャン対象外の通話チャンネル（例：CH01）が選択されている状態でスキャンを開始させたときは、その通話チャンネルも含めてスキャンします。

※使用するには、詳細設定モードから、**[録再]**キーの［録再キー短押し］、または［録再キー長押し］の動作を「M-CHスキャン」に設定してください。
設定すると、スキャンの対象にするチャンネルを［スキャン/サーチCH］項目で設定できます。（☞P8-7）

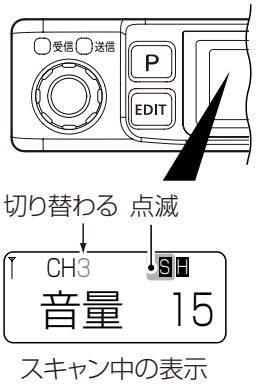
【操作のしかた】

◎**「M-CHスキャン」を［録再キー短押し］に設定した場合**
[録再]キーを短く押します。
●スキャンを開始します。

◎**「M-CHスキャン」を［録再キー長押し］に設定した場合**
[録再]キーを長く（約1秒）押します。
●スキャンを開始します。
コマンドマイクの［録再］キーを押します。

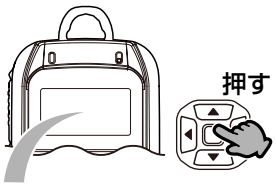


スキャン中の表示

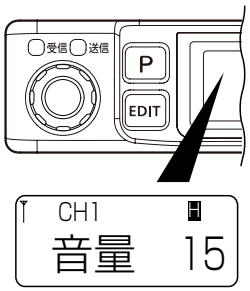


スキャン中の表示

【メモリーチャンネルスキャンを解除するには】
[決定]キーを押します。
●スキャンをする直前に選択されていた通話チャンネルを表示します。
※スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。
※電源を入れなおしても、スキャンは解除されません。
コマンドマイクの［決定］キーを押します。



スキャンを解除したときの表示



スキャンを解除したときの表示

【メモリーチャンネルスキャンの動作について】

◎スキャンの対象に設定された通話チャンネルが1件だけで、その通話チャンネルと同じ番号を選択しているときは、スキャンしません。

◎スキャン中に緊急呼び出しなど、送信をすると、スキャン動作を解除して、スキャンをする直前に選択されていた通話チャンネルで呼び出しをします。

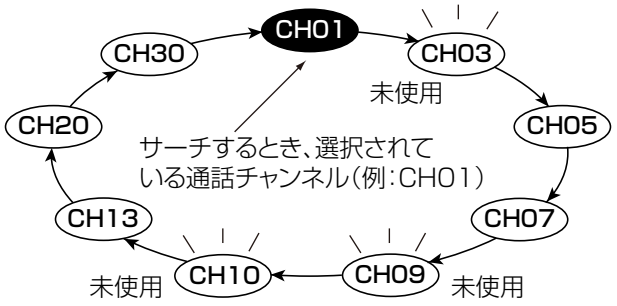
◎スキャン中は、個別呼び出しや緊急呼び出しを正しく受信できないことがあります。

◎電波を受信中は、詳細設定モードの［スキャン停止時間］（☞P8-7）と［スキャン再開時間］（☞P8-8）の設定にしたがってスキャンします。
工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、受信状態が10秒つづいたら、スキャンを再開します。
10秒経過するまでに信号がなくなり、その状態が5秒つづいたら、スキャンを再開します。

◎［スキャン/サーチするチャンネルの設定］（☞P8-7）に上空用チャンネル（CH S1～CH S5）（☞P8-9）が設定されている場合は、上空用チャンネルをメモリーチャンネルスキャンの対象にできます。

■ 空きチャンネルサーチ機能

通話チャンネルを自動で切り替えて、使用していない通話チャンネルを探し出す機能です。



○は、サーチの対象に設定された通話チャンネル

※サーチ対象外の通話チャンネル(例:CH01)が選択されている状態でサーチを開始させたときは、その通話チャンネルも含めてサーチします。

※使用するには、詳細設定モードから、**[録再]**キーの[録再キー短押し]、または[録再キー長押し]の動作を「E-CHサーチ」に設定してください。
設定すると、サーチの対象にするチャンネルを[スキャン/サーチCH]項目で設定できます。(☞P8-7)

【空きチャンネルサーチの動作について】

◎サーチの対象に設定された通話チャンネルが1件だけで、その通話チャンネルと同じ番号を選択しているときは、サーチしません。

◎サーチ中は、送信や緊急呼び出しができません。
また、右図のようなサーチ結果が表示されている状態では、**[決定]**キーを押して、その表示を解除するまで、送信や緊急呼び出しができません。

空きチャンネルサーチ完了時の表示例

◎サーチ中、自局宛ての呼び出しを受けたときは、**[送・受]**ランプが点灯しますが、**[決定]**キーを押して、サーチする前の表示に戻すまで、音声は聞こえません。

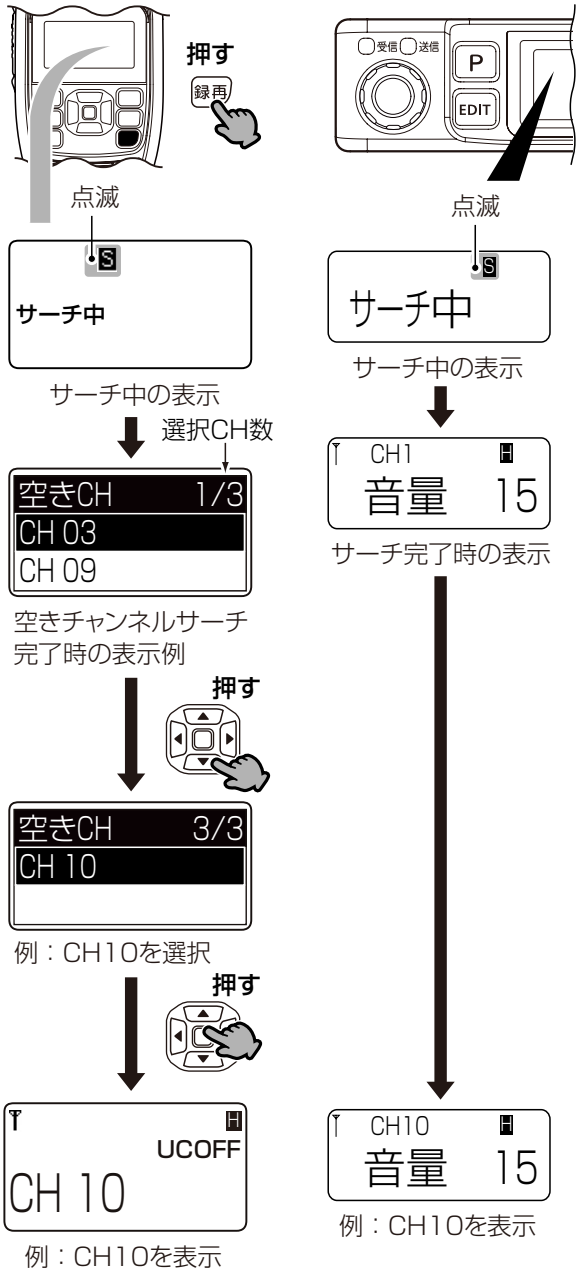
◎[スキャン/サーチするチャンネルの設定](☞P8-7)に上空用チャンネル(CH S1～CH S5)(☞P8-9)が設定されている場合は、上空用チャンネルをサーチの対象にできます。

【操作のしかた】

◎**「E-CHサーチ」を[録再キー短押し]に設定した場合**
[録再]キーを短く押します。
●サーチ中を表示します。

◎**「E-CHサーチ」を[録再キー長押し]に設定した場合**
[録再]キーを長く(約1秒)押します。
●サーチ中を表示します。

コマンドマイクの[録再]キーを押します。

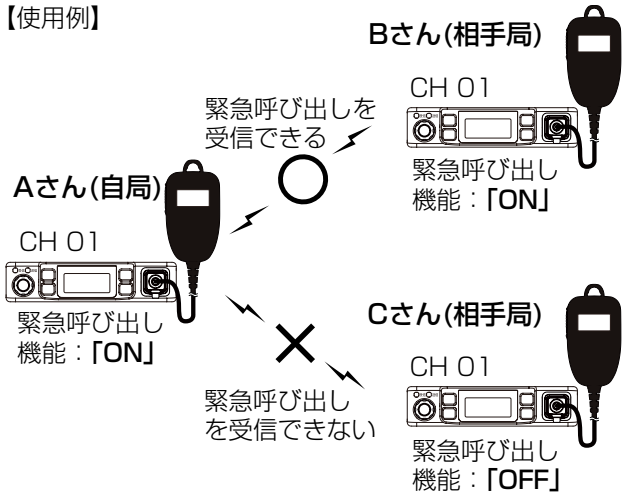


■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※使用するには、詳細設定モードから設定の変更が必要です。(☞P8-6)

【使用例】



⚠警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

[◀]/[▶]キーを押して、適切な音量レベルになっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

◎緊急呼び出し機能は、送信側と受信側の無線機に設定されているとき、使用できる機能です。
送信側と受信側の両方に設定されていないときは、緊急呼び出しの送信や受信、応答ができません。

◎個別呼び出し機能(☞P6-1)が設定されていない無線機から、個別呼び出し機能が設定されている無線機へ緊急呼び出しはできません。
緊急呼び出し機能を使用するときは、送信側と受信側の両方に個別呼び出し機能を設定してください。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

◎音量が最小に設定されている場合
◎電波状況の悪化により電波が届かない場合
◎「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)を選択している場合
◎「上空用チャンネル(CH S1～CH S5)」を選択している場合
◎混信防止(キャリアセンス)機能(☞P3-2)により送信制限された場合

■ 緊急呼び出し機能（エマージェンシー）つづき

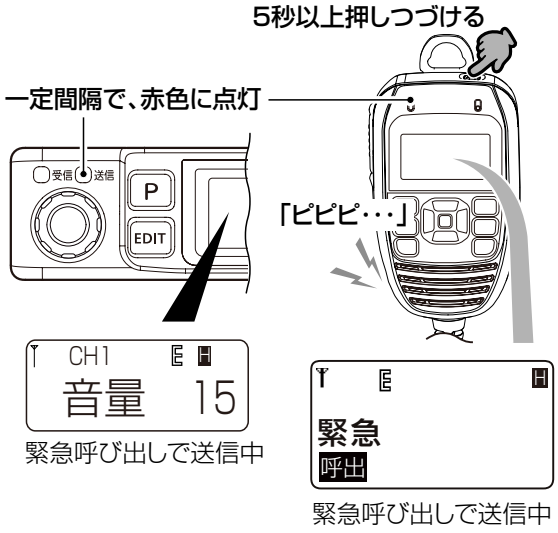
【緊急呼び出しのしかた】

コマンドマイク（HM-206 #02）の**[緊急呼び出し]**キーを長く（5秒以上）押すと、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しをします。

①緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択します。

②**「緊急」**と表示されるまで、コマンドマイク（HM-206 #02）の**[緊急呼び出し]**キーを長く（5秒以上）押します。

●「緊急」表示の点滅と同時に、警告音が**「ピピピ･･･」**と鳴って、一定の間隔ごとに**[送・受]**ランプが赤色に点灯します。



緊急呼び出しで送信中

緊急呼び出しで送信中

③その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

●応答があると、「**呼出**」表示が「**通話**」表示に変わり、**[送・受]**ランプが緑色に点灯します。

個別呼び出し機能使用時は、応答した相手の自局番号も併せて表示されます。

※応答がない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

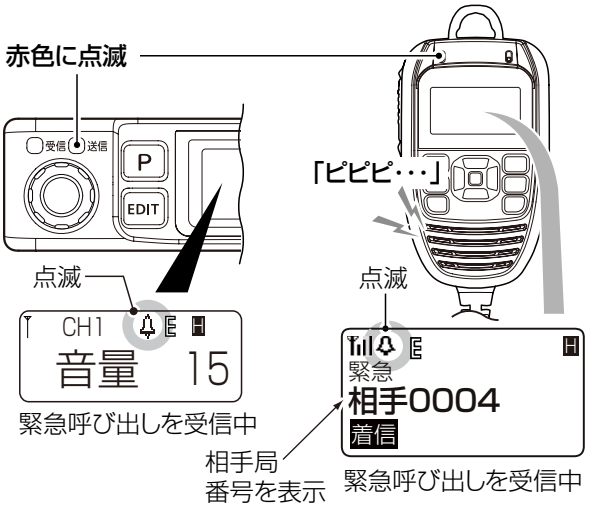
④通話をつづけます。

●何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

【緊急呼び出しを受けたときは】

①警告音が**「ピピピ･･･」**と鳴って、**[送・受]**ランプが赤色に点滅します。

また、「緊急」と「相手局番号」を表示します。



緊急呼び出しを受信中

緊急呼び出しを受信中

②**[PTT]**（送信）スイッチを押して、応答します。

●応答すると、「**着信**」表示が「**通話**」表示に変わり、警告音が停止します。

※応答しない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

③通話をつづけます。

●何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。

■ GPS機能

自局の位置情報（緯度/経度）を表示したり、相手局に自局の位置情報を送信したりできる機能です。
相手局の位置情報を受信したときは、相手局との距離と方位を表示できます。

※使用するには、詳細設定モードから設定の変更が必要です。（☞P8-9）
本書では、GPS機能が設定されているものとして説明します。

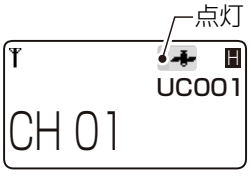
※「✈」が点滅から点灯に変わると、受信（測位）完了です。点滅している状態では、位置情報の表示や送信、着信履歴使用時の時刻表示ができません。

※コマンドマイク（HM-206 #02）が設置されている場所や建物の周辺環境によって、GPS衛星からの信号を受信できないために測位できない場合があります。

※位置管理システムなどのマッピングには対応していません。

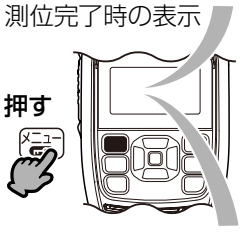
【自局の位置情報（緯度/経度）を確認するには】

①「✈」が点灯（測位が完了）していることを確認します。

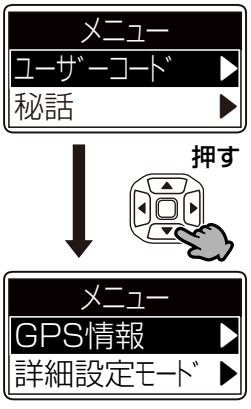


測位完了時の表示

②**[メニュー/⊶O]**キーを短く押します。
- ●メニュー画面が表示されます。（例：呼出CH以外の通話チャンネルを選択時）
- ※何も操作しない状態が、約10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。



③**[▲]/[▼]**キーを押して、「GPS情報」を選択します。

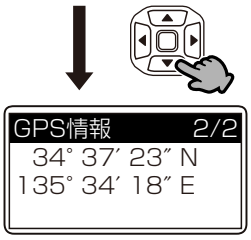


GPS情報を選択

④**[決定]**キーを押します。
- ●測位日時と追尾衛星数（表示例 SAT：05）を表示します。

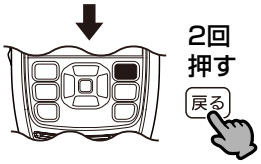
測位日時と追尾衛星数（SAT）の表示例

⑤**[▼]**キーを押すと、緯度と経度を表示します。



緯度と経度の表示例

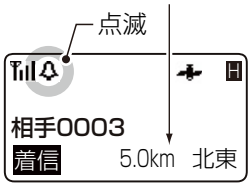
⑥待ち受け時の表示に戻すときは、**[戻る]**キーを2回押します。



【相手局から位置情報（緯度/経度）を受信したときの表示】

GPS機能が設定されているとき、相手局の位置情報を受信すると、相手局との距離と方位を表示します。

例：相手局が自局より北東へ5.0km先にいることを表示



相手局から位置情報付きで、個別呼び出しを受けたときの表示例

※着信履歴機能が設定されているときは、着信履歴から、相手局の緯度、経度、距離、方位を確認できます。（☞P7-3）

※個別呼び出し機能がOFFの場合は、ユーザーコードが同じ相手からの呼び出しを受信したときだけ、相手局との距離と方位を表示できます。

※通話相手との距離が5m未満で送信したときは、自局との距離と方位が相手局に表示されないことがあります。

■ GPS機能（つづき）

【自局の位置情報（緯度/経度）を送信するには】

が点灯している状態で、**[PTT]**（送信）スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- **[PTT]**（送信）スイッチを押しているあいだは、**[送・受]**ランプが赤色に点灯します。同時に、自局の位置情報が通話相手に送信されます。

自局の位置情報付きで、個別呼び出しをしたときの表示例

【ご参考】

位置情報（緯度/経度）が通話相手に送出されるのは、最初に呼び出し、または応答をしたときだけです。

通話中は、終話するまで、最新の位置情報が送出されませんので、通信開始時と位置情報が異なることがあります。

※自局の位置情報が送出されないようにするときは、詳細設定モードの［GPS送信］で設定を「OFF」にできます。（☞P8-10）

【送信時のご注意】

[PTT]（送信）スイッチを押すと、位置情報（緯度/経度）を送出後に音声が送信されます。

「ピピッ」と鳴ってから、通話相手に呼びかけてください。

■ ノイズキャンセル機能

周囲の雑音を抑えて、雑音の少ない音声にして通話する機能です。

※使用するには、詳細設定モードから設定の変更が必要です。（☞P8-11）

※右図のマイクから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクから入った周囲のノイズを打ち消すことで、送信音声に含まれるノイズ（特に低音域）を軽減します。

HM-206 #02(後面)

【ご注意】

送信するときは、ノイズキャンセル機能用のマイクが指でふさがらないように、コマンドマイク（HM-206 #02）を持ってください。

8 各種機能の設定

「設定モード」、または「詳細設定モード」から、本製品の各機能を変更する方法について説明します。

■ 設定一覧

コマンドマイク(HM-206 #02)に表示される設定項目について説明しています。
設定モード、詳細設定モードによって、設定できる項目が異なります。
以下の一覧表を参考に、必要な項目を設定してください。
□欄は、設定モードでも変更できる設定項目です。

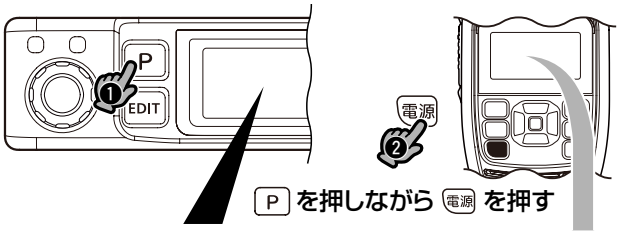
機能名称	初期値	参照
ポケットビープ機能	OFF	P8-3
呼び出しメロディー※1	メロディ 1	P8-3
送信モニター	ON	P8-3
終話信号受信ビープ	ON	P8-3
秘話機能	チャンネル共通	P8-3
マイクゲイン	0dB	P8-3
ユーザーコード	チャンネル共通	P8-4
個別呼び出し機能	OFF	P8-4
自局番号設定※2	自局0001	P8-4
相手局番号表示※2	ON	P8-4
グループ番号表示※2	OFF	P8-4
グループ設定(メンバー指定)※2	—	P8-4
着信履歴表示機能※2	OFF	P8-5
終話後表示※2	通話前表示	P8-5
着信履歴消去※2	しない	P8-5
呼び出し着信音機能※2,※3	OFF	P8-5
エマージェンシー機能	OFF	P8-6
プライベートチャンネル機能	ON	P8-6
プライベートチャンネル番号※4	呼出CH	P8-6
[録再]キー短押し	無効	P8-7
[録再]キー長押し	無効	P8-7
スキャン/サーチするチャンネルの設定※5	—	P8-7
スキャン停止時間※6	10秒	P8-7
スキャン再開時間※6	5秒	P8-8
通話後スキャン動作※6	スキャン解除	P8-8
キーロック時の音量操作	有効	P8-8
外部スピーカー出力	自動	P8-8
チャンネル番号音声案内機能	ON	P8-8
受信電波強度通知機能	OFF	P8-8
上空用チャンネル	OFF	P8-9
マイクコントラスト	12	P8-9
本体コントラスト	12	P8-9
バックライト	常時点灯	P8-9
マイク表示輝度	4	P8-9
本体表示輝度	4	P8-9
GPS機能	OFF	P8-9
GPS送信※7	ON	P8-10
自局自動測位※8	—	P8-10
自局位置情報※7	35°00'00" N 140°00'00" E	P8-10

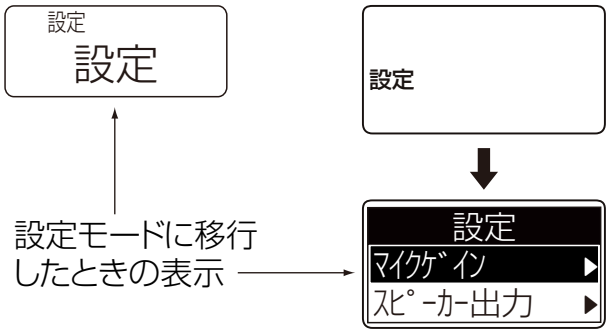
※1 ポケットビープの設定が「メロディ」のとき、設定できます。
※2 個別呼び出しの設定が「ON」のとき、設定できます。
※3 ポケットビープの設定が「OFF」のとき、設定できます。
※4 プライベートチャンネル機能の設定が「ON」のとき、設定できます。
※5 **[録再]**キー短押し、または**[録再]**キー長押しの設定が「M-CHスキャン」、または「E-CHサーチ」のとき、設定できます。
※6 **[録再]**キー短押し、または**[録再]**キー長押しの設定が「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」のとき、設定できます。
※7 GPS機能の設定が「ON」のとき、設定できます。
※8 GPS機能の設定が「ON」のとき、表示されます。

■ 設定モードに移行するには

【操作のしかた】

①本製品の電源を切ります。
② **[P]**(プログラム)キーを押しながら、**[電源]**キーを押しつづけます。



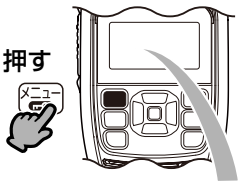


③**「設定」**と表示され、**「ピピッ」**と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
● 設定項目が表示されます。
※設定モードを解除するまで通話できません。
④「■ 設定のしかた」(☞P8-2)の操作をすると、設定値を変更できます。

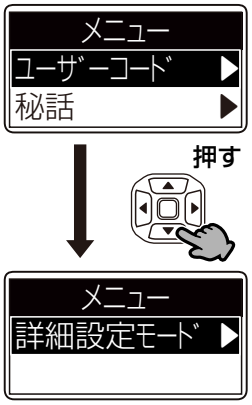
■ 詳細設定モードに移行するには

【操作のしかた】

①**[メニュー/⊓O]**キーを短く押します。
- ●メニュー画面が表示されます。(例:呼出CH以外の通話チャンネルを選択時)
- ※何も操作しない状態が、約10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。

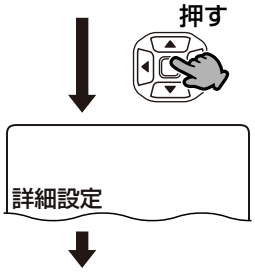


②**[▼]**キーを繰り返し押して、「詳細設定モード」を選択します。



詳細設定モードを選択

③**[決定]**キーを押します。
- ●**「詳細設定」**と表示され、**「ピピッ」**と鳴ります。
- ※詳細設定モードを解除するまで通話できません。



④「■ 設定のしかた」の操作をすると、設定値を変更できます。

詳細設定モードの表示

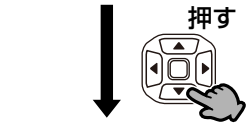
■ 設定のしかた

設定モード、または詳細設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

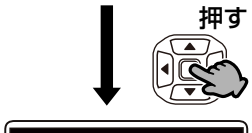
①**[▲]**/**[▼]**キーを繰り返し押して、設定項目(例:スピーカー出力)を選択します。

設定モードの表示例



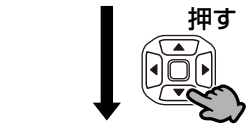
例:スピーカー出力を選択したとき

②**[決定]**キーを押します。
- ●現在の設定値(例:自動)が表示されます。



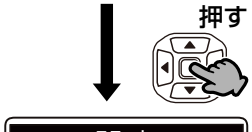
現在の設定値

③**[▲]**/**[▼]**キーを繰り返し押して、設定値を選択します。(例:全てのSP)



変更する設定値を選択
(選択例:全てのSP)

④**[決定]**キーを押します。
- ●設定値が確定されます。
- ※ほかの機能も変更するときは、①～④の操作を繰り返します。



設定値確定後の表示

⑤設定モード、または詳細設定モードを解除するときは、**[PTT]**(送信)スイッチを押します。
- ※設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

設定モード解除

■ 設定項目について

▭欄は、設定モードでも変更できる設定項目です。

ポケットビープ機能 （初期設定値：OFF）

ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。

※グループ、または全局呼び出しを受けたときは、ポケットビープが「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

- OFF　：ポケットビープを使用しない
- 30回　：「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3回　：「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- 1分毎　：「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- 連続　：「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- ピー　：「ピー」と音が1回鳴る
- ピピピ　：「ピピピ」と音が1回鳴る
- メロディ：あらかじめ設定されたメロディー音が鳴る

呼び出しメロディー （初期設定値：メロディ1）

ポケットビープ機能を「メロディ」に設定したとき、そのメロディー音を設定します。

※[ポケットビープ]を「メロディ」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲：メロディ1～メロディ9

送信モニター （初期設定値：ON）

[PTT]（送信）スイッチを押したときのビープ音について設定します。

- OFF：ビープ音（ピッ）が鳴らない
- ON　：ビープ音（ピッ）が鳴る

※送信できない場合など、禁止されている操作は、設定に関係なく、音色の異なるビープ音が鳴ります。

終話信号受信ビープ （初期設定値：ON）

通話相手の終話信号を受信したときのビープ音について設定します。

- OFF：ビープ音（ピッ）が鳴らない
- ON　：ビープ音（ピッ）が鳴る

秘話機能 （初期設定値：チャンネル共通）

通話チャンネル共通の秘話キーを使用するか、通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用するかを設定します。

- チャンネル毎　：通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用する。
- チャンネル共通：通話チャンネル共通の秘話キーを使用する

マイクゲイン （初期設定値：0dB）

マイクの感度を設定します。

- 選択範囲：－15dB（低）～0dB（中）～9dB（高）

※3dB単位で選択できます。

※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。
また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

■ 設定項目について(つづき)

ユーザーコード (初期設定値:チャンネル共通)

通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

- チャンネル毎 :通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する
- チャンネル共通 :通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する

個別呼び出し機能 (初期設定値:OFF)

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

自局番号設定 (初期設定値:自局0001)

この項目で設定する自局番号で個別呼び出しを受けると着信します。

※[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲:自局0001～自局9999

【編集できる桁を変更するには】

上記の画面で、**[相手局番号帳]**キーを短く押したときは、編集する桁を**[◀]/[▶]**キー、自局番号を**[▲]/[▼]**キーで選択できます。

※上記の画面に戻るときは、**[決定]**キーを押します。

カーソルを編集する桁に移動する

相手局番号表示 (初期設定値:ON)

[相手局番号帳]キーを繰り返し短く押したとき、個別呼び出しする相手の自局番号を選択する項目の表示について設定します。

※[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- OFF:表示しない
- ON :表示する

グループ番号表示 (初期設定値:OFF)

[相手局番号帳]キーを繰り返し押したとき、グループ呼び出しをする相手のグループ番号を選択する項目の表示について設定します。

※[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- OFF:表示しない
- ON :表示する

グループ設定(メンバー指定)

個別呼び出しに使用するグループ(メンバー)への参加/不参加を設定します。

※[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲:グループ01～グループ10

選択したグループ番号表示で**[決定]**キーを押すごとに、「グループID」、「メンバーとなるグループID」の切り替えができます。

※「メンバーとなるグループID」選択時、表示部に「■」が点灯します。

- 「■」なし:グループID
  このグループ番号の呼び出しは受けません。
  (このグループ番号を選択して、呼び出すことはできます。)
- 「■」あり:メンバーとなるグループID
  このグループ番号を呼び出すことも、呼び出しを受けることもできます。

■ 設定項目について(つづき)

▭欄は、設定モードでも変更できる設定項目です。

着信履歴表示機能 (初期設定値:OFF)

個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号やグループ番号を着信履歴(☞P7-3)として表示する設定です。

※[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- OFF:表示しない
- ON :表示する

※着信履歴は、「OFF」のときも記憶されます。

終話後表示 (初期設定値:通話前表示)

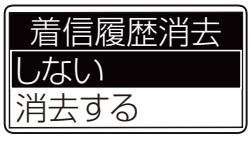
通話を終了後、待ち受け状態での表示内容を設定します。

※[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

※無線機本体に付属の防水スピーカーマイク(HM-204)を接続したときに動作する設定です。

- 通話前表示 :通話前の表示に戻る
- チャンネル :通話チャンネル番号がツマミで変更できる状態(約10秒)になったあと、通話チャンネル表示に戻る
- ホーム :通話チャンネル表示に戻る

着信履歴消去 (初期設定値:しない)



自局番号やグループ設定の変更により、着信履歴を個別呼び出しなどに利用できなくなった場合、その履歴を消去します。

※[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- しない :**[決定]**キーを押しても、履歴を削除しない
- 消去する :**[決定]**キーを押すと、履歴を削除する

※「消去する」を選択後、**[戻る]**キーを押して、ほかの設定項目に移動したときは、着信履歴を消去しないと認識され、「着信履歴消去」を選択したときの状態に戻ります。

呼び出し着信音機能 (初期設定値:OFF)

呼び出しを受けた相手の自局番号、グループ番号ごとに、異なる呼び出し音のパターンを設定します。

※[ポケットビープ]を「OFF」、および[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- OFF :使用しない
- 30回 :「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3回 :「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- 1分毎 :「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- 連続 :「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- ピー :「ピー」と音が1回鳴る
- ピピピ :「ピピピ」と音が1回鳴る
- ﾒﾛﾃﾞｨ1～9 :設定した番号のメロディー音が鳴る

※全局呼び出しを受けたときは、呼び出し音が「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

【呼び出し着信音のパターンを変更するには】

①**[▲]/[▼]**キーを繰り返し押して、相手の自局番号、またはグループ番号を選択します。
- 選択範囲:
  相0001～相0010、
  グループ01～
  グループ10

②**[決定]**キーを押します。
- 「OFF」(初期設定値)が表示されます。

③**[▲]/[▼]**キーを繰り返し押して、呼び出し着信音を選択します。

④**[決定]**キーを押します。

※ほかの相手局の呼び出し着信音も設定するときは、①～④を繰り返します。

相手局番号(選択例)

グループ番号(選択例)

選択した番号の表示

着信音(設定例)

(☞次ページにつづく)

■ 設定項目について(つづき)

呼び出し着信音機能(つづき)

【相手局番号を変更するには】

設定されている呼び出し音のパターンに対する相手局番号を変更するときは、下記の操作で変更できます。

※グループ番号は、変更できません。

① **[▲]**/**[▼]**キーを繰り返し押して、変更する相手局番号を選択します。

② **[相手局番号帳]**キーを押します。

③編集するときは、**[◀]**/**[▶]**キーを短く押して編集できる桁に移動し、**[▲]**/**[▼]**キーを押して番号を変更します。

- 選択範囲:
  0001～9999

④ **[決定]**キーを押します。

※ほかの番号も設定するときは、①～④を繰り返します。

※例のように、番号が同じ場合は、1番上の行に表示された番号の呼び出し音が鳴ります。

相手局番号(選択例)

相手局番号編集表示

相手局番号(変更例)

相0002から呼び出しを受けると、「ﾒﾛﾃﾞｨ1」が鳴るように変更した例

エマージェンシー機能 (初期設定値:OFF)

緊急呼び出し(エマージェンシー)機能の設定です。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※使用するには、この機能と個別呼び出し機能の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。

プライベートチャンネル機能 (初期設定値:ON)

プライベートチャンネル機能を設定します。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※「OFF」に設定したときは、**[録再]**キーによるプライベートチャンネルへの切り替え操作ができません。

プライベートチャンネル番号 (初期設定値:呼出CH)

通話チャンネルからプライベートチャンネルにする番号を設定します。

※[P-CH機能]を「ON」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲: CH 01～CH 14、呼出CH、CH 16～CH 30、CH S1～CH S5★

★上空用チャンネル(CH S1～CH S5)をプライベートチャンネル番号に設定する場合は、[上空用チャンネル](☞P8-9)を「ON」に設定してください。

※上空用チャンネルをプライベートチャンネルに設定した状態で、[上空用チャンネル]を「OFF」に設定すると、プライベートチャンネルは、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に設定されます。

■ 設定項目について（つづき）

[録再]キー短押し　（初期設定値：無効）

[録再]キーを短く押したときの動作を設定します。

[録再]キー長押し　（初期設定値：無効）

[録再]キーを長く押したときの動作を設定します。

- 無効　:動作しない
- P-CHスキャン　:プライベートチャンネルスキャンの開始
- M-CHスキャン　:メモリーチャンネルスキャンの開始
- E-CHサーチ　:空きチャンネルサーチの開始
- 周波数表示　:通話チャンネル番号表示と周波数表示を切り替える
- P–CH　:通話チャンネル番号表示とプライベートチャンネル番号表示を切り替える
- モニター　:押しているあいだだけモニター機能（☞P7-1）が動作する（**[録再]**キー長押しに対して設定できます。）

※「P-CHスキャン」選択時、プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

※「M-CHスキャン」選択時、設定したチャンネルが1件だけの場合、そのチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

※無線機本体に付属の防水スピーカーマイク（HM-204）を接続したときは、**[P]**（プログラム）キー短押し、および**[P]**（プログラム）キー長押しの項目で設定された動作になります。

スキャン/サーチするチャンネルの設定

メモリーチャンネルスキャン、または空きチャンネルサーチの対象にする通話チャンネルを設定します。

※ **[録再]**キー短押し、または**[録再]**キー長押しを、「M-CHスキャン」、または「E-CHサーチ」に設定したときに表示されます。

【設定のしかた】

① **[▲]**/**[▼]**キーを繰り返し押して、スキャン、またはサーチの対象にする通話チャンネル番号を選択します。

- 選択範囲：CH 01～CH 14、呼出CH、CH 16～CH 30、CH S1～CH S5★

② **[決定]**キーを短く押すごとに、指定と解除が切り替わります。

- 指定すると、「✔」が点灯します。（例：CH01）

★上空用チャンネル（CH S1～CH S5）をメモリーチャンネルスキャン、または空きチャンネルサーチの対象にする場合は、［上空用チャンネル］(☞P8-9)を「ON」に設定してください。

スキャン停止時間　（初期設定値：10秒）

電波を受信中、プライベートチャンネルスキャン、またはメモリーチャンネルスキャンを停止する時間を設定します。

※ **[録再]**キー短押し、または**[録再]**キー長押しを、「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲：2秒～20秒（2秒単位）、停止保持

※「停止保持」を選択したときは、受信信号がなくなるまで、スキャンを停止します。

※受信信号がなくなると、［スキャン再開時間］(☞P8-8)の設定にしたがって、スキャンを再開します。

■ 設定項目について(つづき)

□欄は、設定モードでも変更できる設定項目です。

スキャン再開時間 (初期設定値:5秒)

スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンが再開するまでの時間を設定します。

※ **[録再]**キー短押し、または**[録再]**キー長押しを、「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」に設定したときに表示されます。

- 即時 :すぐにスキャンを再開
- 1秒～5秒 :設定時間が経過すると、スキャンを再開
- 再開しない :スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンを再開しない

通話後スキャン動作 (初期設定値:スキャン解除)

スキャン中、**[PTT]**(送信)スイッチを操作したときのスキャン動作を設定します。

※ **[録再]**キー短押し、または**[録再]**キー長押しを、「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」に設定したときに表示されます。

- スキャン再開 :数秒後、スキャンを再開
- スキャン解除 :スキャンを解除

キーロック時の音量操作 (初期設定値:有効)

ロック機能動作中の音量操作についての設定です。

- 無効 :音量操作を無効にする
- 有効 :音量操作を有効にする

【設定変更時のご注意】

ロック機能が「ON」で電源を切り、詳細設定モードに移行して、[キーロック時音量]の設定を変更したときだけ、ロック機能が「OFF」になります。

外部スピーカー出力 (初期設定値:自動)

外部スピーカーを接続したとき、スピーカーマイク(弊社製)から音を出力するかしないかの設定です。

- 自動 :外部スピーカーだけに音を出す
- 全てのSP :外部スピーカーとスピーカーマイクの両方に音を出す
- SPマイクのみ:スピーカーマイクだけに音を出す

【ご注意】

市販の外部スピーカー(ステレオプラグ)を接続すると、外部スピーカーから音が出ないことがあります。

※別売品の外部スピーカー(SP-30、SP-35)をご使用ください。

チャンネル番号音声案内機能 (初期設定値:ON)

通話チャンネル番号を読み上げる機能の設定です。

- OFF :使用しない
- ON :電源を入れたときや、チャンネルを変更したときに、選択されたチャンネル番号を読み上げる

※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、「呼び出し」と読み上げます。

※上空用チャンネル(CH S1～CH S5)選択時は、チャンネル番号の前に、「上空」を付けて読み上げます。

受信電波強度通知機能 (初期設定値:OFF)

受信電波強度通知機能の設定です。

- OFF :通知しない
- ON :通話がつづけられない状態まで受信信号の強度が弱くなると、通知音(ピンポン)が鳴る

■ 設定項目について(つづき)

□欄は、設定モードでも変更できる設定項目です。

上空用チャンネル (初期設定値:OFF)

上空用チャンネル(CH S1～CH S5)の設定です。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※「ON」に設定すると、通話チャンネルから選択できます。

※上空用チャンネルでは、送信できません。

マイクコントラスト (初期設定値:12)

本体コントラスト (初期設定値:12)

表示部のコントラスト(濃淡)を調整します。

- 選択範囲:0(淡)～25(濃)

※**[相手局番号帳]**キーを長く押すと、初期設定値を選択した状態に戻ります。

バックライト (初期設定値:常時点灯)

送信以外の操作をすると、表示部とキーの照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。

- 常時消灯 :点灯しない
- 操作時点灯:送信以外の操作をすると、照明が約5秒点灯する
- 常時点灯 :電源を切るまで消灯しない

マイク表示輝度 (初期設定値:4)

本体表示輝度 (初期設定値:4)

表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲:1～7

GPS機能 (初期設定値:OFF)

自局の位置情報(緯度/経度)を表示したり、送信したりできる機能を設定します。

※使用するには、送信側と受信側の無線機に設定が必要です。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

■ 設定項目について(つづき)

GPS送信 (初期設定値:ON)

測位した自局の位置情報(緯度/経度)を送信するかどうかの設定です。

※[GPS機能]を「ON」に設定したときに表示されます。

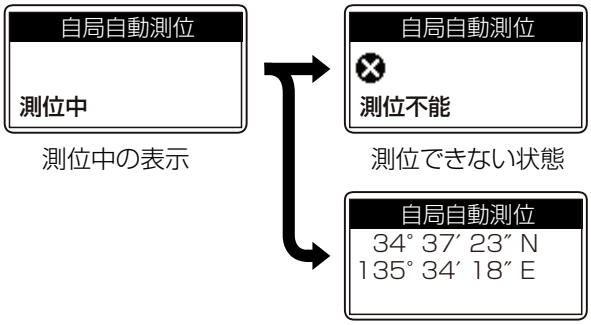
- OFF :自局の位置情報を送信しない
- ON :**[PTT]**(送信)スイッチを押すと同時に、測位した自局の位置情報を送信する

【ご参考】

位置情報(緯度/経度)が通話相手に送出されるのは、最初に呼び出し、または応答をしたときだけです。

通話中は、終話するまで、最新の位置情報が送出されませんので、通信開始時と位置情報が異なることがあります。

自局自動測位



測位中の表示　測位できない状態

緯度と経度の表示例

自局がGPS衛星からの信号を受信(測位)したとき、自局の緯度と経度を表示します。

※[GPS機能]を「ON」に設定したときに表示されます。

※測位不能のときは、約1秒後、[自局自動測位]を選択する前の表示に戻ります。

※コマンドマイク(HM-206 #02)が設置されている場所や建物の周辺環境によって、GPS衛星からの信号を受信できないために測位できない場合があります。

自局位置情報 (初期設定値: 35°00′00″N 140°00′00″E)

自局がGPS衛星からの信号を受信(測位)できないときでも、相手局から受信した位置情報(緯度/経度)をもとに、相手局との距離と方位を表示させるときは、この項目で自局の緯度と経度を設定します。

※[GPS機能]を「ON」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲:緯度 20°00′00″～ 50°00′00″
  経度 120°00′00″～160°00′00″

【自局位置情報を編集するには】

①**[▲]/[▼]**キーを押して、緯度か経度を選択します。

経度の選択例

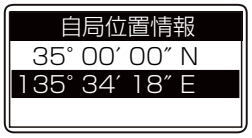
②**[相手局番号帳]**キーを押します。

編集表示(例:経度)

③編集するときは、**[◀]/[▶]**キーを短く押して編集できる桁に移動し、**[▲]/[▼]**キーを押して値を変更します。

経度の変更例

④**[決定]**キーを押します。



自局位置情報の変更例

■ 設定項目について(つづき)

ノイズキャンセル機能 (初期設定値:OFF)

送信音声に含まれるノイズ(特に低音域)を軽減する機能を設定します。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

文字サイズ (初期設定値:大)

コマンドマイク(HM-206 #02)に表示される文字の大きさを設定します。

- 小 :文字の大きさを小さくする
- 大 :文字の大きさを大きくする

無線機本体のツマミ動作 (初期設定値:音量)

コマンドマイク(HM-206 #02)を無線機に接続しているとき、無線機本体のツマミの動作を設定します。

- 音量 :音量の調整
- チャンネル :通話チャンネルの変更

ユーザーリセット (初期設定値:しない)

すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセット)ときの設定と操作です。

- しない :**[決定]**キーを押しても、初期化しない
- 初期化する :**[決定]**キーを押すと、初期化する

※「初期化する」を選択後、**[戻る]**キーを押して、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「ユーザーリセット」を選択したときの状態に戻ります。

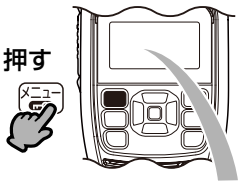
【ご注意】
設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。
※リセットの途中で、エンジンを始動させるなどして、一時的に電源が切れると、故障の原因になることがあります。

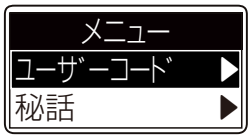
9 初期状態に戻す(リセットする)には

下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

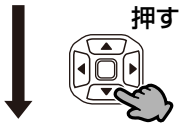
【操作のしかた】

① **[メニュー/⊶]**キーを短く押します。
- ●メニュー画面が表示されます。(例:呼出CH以外の通話チャンネルを選択時)
- ※何も操作しない状態が、約10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。





② **[▼]**キーを繰り返し押して、「詳細設定モード」を選択します。

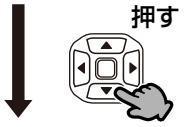


詳細設定モードを選択

③ **[決定]**キーを押します。
- ●**「詳細設定」**と表示され、**「ピピッ」**と鳴ります。
- ※詳細設定モードを解除するまで通話できません。

④ **[▼]**キーを繰り返し押して、「ユーザーリセット」を選択します。

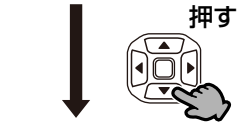
詳細設定モード移行直後の表示



ユーザーリセットを選択したとき

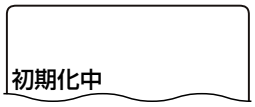
⑤ **[決定]**キーを押します。

⑥ **[▼]**キーを押して、「初期化する」を選択します。
- ※リセットを中止するときは、**[PTT]**(送信)スイッチを押してください。



初期化するを選択したとき

⑦ **[決定]**キーを押します。
- ●「初期化中」と表示され、設定値がリセットされたあと、無線機が再起動します。



【ご注意】
設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。
※リセットの途中で、エンジンを始動させるなどして、一時的に電源が切れると、故障の原因になることがあります。

高品質がテーマです。

A-7133-5J
© 2015 Icom Inc.

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32